大正十二年六月一日發行（每月一回一日發行）

The Society of Manchuria.

滿洲之社會



六月記念號

第壹卷第拾號

滿洲之社會——第壹卷第拾號（大正十二年六月號）

輸出入倉庫、土木、建築、保險及諸代理

大連市山縣通一六三

FC

福昌公司

電話代表番號　七一七一番
振替貯金口座大連一〇六〇番

出張所
大阪、神戸、青島、營口、鞍山、奉天、撫順、開原、錦州、其他

倉庫部
一般倉庫業務取扱
大連市摩耶町十一番地
電話六〇六三番

保險
大阪海上火災、日本共立火災、豐國火災ゼノースブリチツシユ、エンド、マーカンタイル各保險會社代理店

大連市濱町

滿洲船渠株式會社

本社營業所
大連市山縣通加藤ヒルチング内
電話五八五三番

旅順東鄕町
旅順工場
電話（四八〇番
　　（一八〇番

大連市濱町四十五號地
大連工場
電話（長四七一〇番
　　（四九六五番

本店　東京市麴町區有樂町一丁目一番地

支店　京城、奉天、大連、哈爾賓、青島

出張所　朝鮮（京城、水原、江景、金堤、榮山浦、大邱、馬山、沙里院、平壤、元山）、下ノ關、間島

東洋拓殖株式會社

支店
電話（長）七一四七番
（長）七一四九番
振替口座大連一九七八番
受信略號タイレン、トタク

奉天支店
電話（長）六五七番
（長）三九七番
振替口座大連一九六八番
受信略號ホウテン、トタ

營業科目

一、拓殖ノ爲メ必要ナル資金ノ貸付
一、農業、水利事業及土地ノ經營
一、農業者ニ對シ其ノ必要ナル物品ノ供給及其ノ生産物品ノ分配
一、移住民ニ關スル業務
一、委託ニ因ル土地ノ經營及管理
一、其他拓殖ノ爲メ必要ナル事業ノ經營
一、定期預リ金

●設　立　明治四拾壹年壹月

●資本金　貳千萬圓

●拂込濟資本金　九百五拾萬圓

●諸積立金　貳百貳拾七萬五千圓

◎定期預金利子（一ヶ年）七分

大連市大山通十四番地

電話代表番號七二二一番
振替貯金（大連）三三〇番

日支合辦　株式會社

正隆銀行

頭取　安田善兵衛

顧問　安田善次郎

●當行は安田貯蓄銀行の代理支店として般貯蓄預金を御便利に取扱申候

●當行は日本内地、朝鮮、南北滿洲、支那内地に於て約二千の爲替取引先を有し候

●當行は關東州地方費現金竝に大連市金庫事務取扱致候

●當行は臺灣銀行と特約を結び外國爲替取扱致候

支　店（所在地）旅順、營口、奉天、撫順、開原、四平街、長春、鄭家屯、錦州、天津、青島

派出所（所在地）大連市小崗子（電話五七四）、奉天城内

資本金　參百萬圓

積立金　參拾六萬七千圓

營業　一般銀行業ノ外年賦（なしくずし）又ハ定期償還ノ方法ニヨリ勸業資金貸付取扱申候

株式會社　遼東銀行

大連市大山通九番地

電話（長四一七六番・四一七七番・三五一三番）

振替大連一六九一番

支店所在地　小崗子。金州。普蘭店。瓦房店。貔子窩

爲替取組先　內地。朝鮮。滿洲ノ各樞要地

祝壹週年紀念號

祝壹週年紀念號

祝壹週年紀念號

資本金參百萬圓

大連市愛宕町十九號地

大連取引所

錢鈔信託株式會社

電話 四二一四番
五二三八番

大連市大山通

株式會社

大連株式商品取引所

電話 八一四一番
七一六三番



社會と個人

社會は全體にして個人は部分なり。個人固より重んずべしと雖も、社會はヨリ以上重んぜざる可らず。個人は部分にして社會は全體なればなり。小我を克せざれば大我に活きる能はず、小異を去らざれば大同に就く能はずとすれば、時と場合とに依りては、社會のために個人を犧牲に供せざるを得ざる事あるべし。否、部分たる個人に犧牲奉公の大精神なくんば、全體たる社會の繁榮發達と其の鞏固堅實なる進步とは到底之れを望むべからざる也。

一理は萬法に通ず。社會の上に築かれたる各種の國家にも、社會の中に作られたる各樣の團體にも、此の理は等しく通用す。會員組織なる我が滿洲社會事業研究會は顧問、相談役並びに評議員等を設けて其の體制を作り、役員はその會務運用の責任の位置に在るものにして、卽ちまた一個の團體たるなり。況んや本會が社會問題の研究と社會事業の實行促進に務むべき團體たるに於て一層深く全體たる社會の上に着眼の要あることは言ふ迄もなし。

個人主義は經濟上の自由放任政策と相待つて資本主義を作れり。此の資本主義に對して起りたるものが社會主義なり。此の故に或る學者は資本主義を以て個人主義發展の歷史的一過程と稱したり。然るに今日の社會主義は餘りに個人の自由を拘束し過ぐる傾きあり。社會のためには時に個人を犧牲に供せざるを得ざる事あるも、社會の健全は其實個人の健全と相待つべきものなれば、社會政策に依りて全體と部分の並進調節を圖るに若くはなき也。

滿洲之社會　第壹巻第拾號　大正十二年六月發行

壹箇年を迎えた研究會

烏兎匆々、歳月梭の如く早しも古いが、滿洲社會事業研究會の創立を見たのは昨年の五月下旬で、こゝに既に一箇年を迎ゐ、此の六月には第二回定期總會を開かねばならぬ。研究會が大連ヤマトホテルで呱々第一聲を揚げた當時の世人の研究會に對する期待は可なりに大きかつた樣だ。爾來此の一箇年間に研究會は種々の社會問題を研究し、論議し、立案したのみならず、廣く一般に向つて社會政策と社會施設の必要を感知せしめ、その智識を增進すると共に兼ねて其の實行を促進した。これは眼に見ゐない無形の作用であるから、或は十分に認められて居ないかも知れないが、指導機關たり間接機關たる研究會の機能は不滿足ながら表現した筈だ。總べて世人の期待に副ひ得たとも思はないが全く世人の期待を裏切つたとも思つて居らない。滿洲社會事業研究會はこゝに漸く一箇年を迎ゐたばかりで要するに猶ほ幼年生時代である。固より世人の期待に背かない樣にと勗めねばならないが、僅か一箇年の間にさう華々しい成績の擧げらるゝ筈はなく、調子に乘つて堅實味を缺いた事をすれば、却つて凋落の期を早める事にもなるから、此點は自他共に深く戒めた

いのである。研究會は其の成立後の昨年六月から八月まで個人的經營であつた雜誌『大陸』を便宜上一時その機關雜誌としたが、九月より現在の純機關雜誌『滿洲之社會』を發行し、內外各地より研究資料を蒐集し、囑託員其他の調査した記事材料を撰擇して機關誌に掲げ、成るべく全般的に社會問題の總べてに亙つて論議、報道紹介に努めて居る。研究會の任務と事業は多岐廣汎であつて、機關雜誌發行の如きは其の一部の仕事に過ぎないが、全滿洲に對して社會問題の研究と社會事業の實行を促進助長するがためには、指導機關たる研究會の本分に鑑み、此の一部の仕事にも相當の人員と經費と努力を要するのである。機關雜誌發行以外、研究會は此の一箇年の間に評議員會を前後五回開催し、住宅問題、市場問題、公園問題、ロータリー倶樂部問題、公營質屋及び庶民金融機關問題等について審議し、實行促進のために其の立案をもなし、當局に向つて建議すべきものは建議する事にし、猶ほ講演會も一回開いた。講演會は今後少くも毎年三四回開きたいものと思つて居る。以上は一箇年の事業成績として甚だ貧弱なるを免れない、滿足なものでは無い、隨つて世人の期待に副ひ得たとは思つて居ない。併し年齒の猶ほ弱冠なると財政の不如意なる事情とを察せられて會員諸君初め一般世人の諒恕を乞ひたいのである。猶ほ研究會は會員組織の團體であつて、其の組織は顧問、相談役、評議員、贊助員及び普通會員より成り、役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名及び幹事、書記若干名といふ

事になつて居る。研究會は既に此くの如き團體であるから、固より個人的のものではなく、其の役員殊に幹事長以下幹事及び書記等は會の奉公人こして會の實務に當つて居る。會の實務に係はる奉公人たる幹事長以下は勿論、會を組織する各會員が一致協戮して會のために努むるこごは、卽ち社會のために竭す所以であつて、要するに其の組織力を統一し調整して始めて研究會の團體的機能が完全に表現せらるるのである。滿洲社會事業研究會は指導機關、間接機關であるから、靜的研究に重きを措き、動的實行に當るべき性質のものではないが、實行促進には出來るだけ力を注ぐべく、或る場合には自ら進んで實行の衝に起たねばならぬ事もあらう。有形は無形より生じ、現實は思想より起る、何事も根源は眼に見へないものだが、實は此の無形の力が一番大切なのであつて、其の培養、訓育及び善導こいふ事を怱せにしては、何事も良い結果を得るものでない。此の無形の力の培養、訓育、善導に努むるこごも一種の實行である。研究會は卽ち其の機關である。今や社會問題の研究並びに社會政策、社會施設、社會事業の實行は我國においても極めて重要な事項こなつた。滿洲においても當に全力を注いで之が良好なる進歩發達を期するこごにせねばならぬ。既に一箇年の壽を迎へた滿洲社會事業研究會は、如上の大勢に鑑み、革面一番その內容を充實して此の機會に更に一躍進を試み、眞に意義あり權威あり價値ある必須不可缺の有力なる機關たらしめたいものである。（芙峰）

內容不備の大連

苟くも近代都市として一個乃至數個の公會堂を有たぬ處はない然るに滿蒙の玄關であつて世界的港灣を有する人口二十萬有餘の大連には一個の公會堂もない▲グレード大連市も之では何處に都市としての面目があると言ひたい公會堂ばかりぢやない碌な公園もなく都市の內容を健全にする總べての社會施設も不完備だらけだ▲公會堂建設の必要は數年前から多數識者の認むる所であつて大連商業會議所は此の輿論に鑑み大正八年に會議所新築の案を立てたとき其の一部を割いて公會堂に充てる計畫を作り滿鐵會社初め各方面の贊同を得た▲處が大正九年四月からの財界のパニックで折角の此の計畫が實行不可能となり會議所新築豫定地たる中央廣場前の空地は之がため今も空地の儘になつて居る▲公會堂のない爲め大きな千餘名も二三千名も人を容れる集會のあつたとき其の主催者がどんなに苦勞するかは苟くも大連に居るもの丶皆知り拔いて居る所だ▲瓦斯協會員が四百五十餘名といふ大團體を作つて最近大連に乘込んだとき早速その宿泊所と歡迎場とに困つて軍隊が來た時のやうに其の團體員を大連市中の各旅館に割當て歡迎場はヤマトホテルでも駄目とあつて支那の菜樓たる監部通りの泰華樓を一晩借切りといふ事にした▲泰華樓は一時繁昌した電氣遊園の登瀛閣も淡路町の共和樓も凌駕して近來非常な繁昌ぶりを見せて居る同じ支那料理店の大東酒家はあはれ遂に寂滅往生して了つた▲斯うして泰華樓の全盛時代を現出したのは泰華樓が外形及び內容を一新して大いに日本人向にし價格を安くし客待遇に意を用ひ何處迄も勉強するからだ▲千勝館や扇芳亭でする日本式の宴會は會費の半分以上を藝者に喰はれて了ふがヤマトホテルの西洋式宴會と泰華樓の支那式宴會には其の心配がない支那式宴席は別して安いソシてたつぷり御馳走が腹に入る▲一ツは不景氣のためでも有らうが近來日本人間の宴會がヤマトホテルと泰華樓に移つたのは値が安くて腹が膨れて其のうへ氣持がいゝからである▲話が少し橫に外れたが瓦斯協會員の歡迎會を泰華樓に持つて行つて支那式宴會にしたのは支那料理の御馳走といふ風變りな處を見せた意味もあらうが要するに大きな集會場所がないと云ふ糞詰まりの結果だ之ではグレート大連市も聞いて呆れるわけだ▲大正十年來の懸案たる滿鐵公館は本年度から愈々建設に取掛るさうだが市民側も此際之れと相呼應して各自應分の出資をなし滿鐵と相待つて一ツ大きな公會堂を大連にぶッ建てる工風を廻らすべし▲西公園の不仕鱈も論外の沙汰で之れもグレート大連市の面目を踏み潰して居るもの丶一ツだ關東廳では本年度からやつと西公園改造に取掛るさうだが其の初年度の改造費がたつた一萬圓とは情ない話だ▲近代の都市事業は必ず社會施設と相待つて其の內容を整へ一般市民の幸福と利便と慰安と修養とそれから保健をその目的として居る然るに都市大連の社會施設は他の都市に比較して一番劣つて居る▲大通りの道路だけが立派で煉瓦建ての二階乃至三階以上の家屋が櫛比して居るところは如何にも壯觀で赤毛布式の田舍者を驚かせるだけの權威は備へて居るが肝腎かなめの內容がプアではお話にならない▲外觀だけ大都市らしく見へても內容が貧弱では近代都市としての資格を備へて居らぬものでグレート大連市などゝ大きな聲では言はれぬわけだ▲大連市內外は今や日支人合せて人口二十四萬以上と言はれ沙河口、譚家屯、小崗子、南山麓、老虎灘等の郊外に伸びつゝある▲此際一方に都市としての內容を整へることに意を用ひないと唯人間ばかり多いごつちやな妙な都市になつて了うだらう。

柳綠花紅

◆本文の記者は嘗て朝鮮に居つたとき有志を糾合して平壤に讀書會を創設した◆會長には當時平壤控訴院長であつた永島巖君を推し重なる人々を賛助員として瑞氣山麓の箕陽倶樂部で發會式を擧げた◆本會を設けた精神は在鮮内地人の多くが物質慾望の充足にのみ熱中し修養を疎かにし氣風甚だ惡く延いてそれが朝鮮人にも惡い影響を與ねたから之を匡救し矯正せんが爲であつた◆讀書會成立後は毎月一回講演會を開き内地から名士の來たときは夫等の人々にも講演を求めた德富蘇峰、海老名彈正兩氏の如きは喜んで講演して吳れた◆一方寄附金と會費を以て圖書を購入し當時の平壤居留民團役所の樓上を借りて其處に圖書を備ね置き追つて簡易圖書館を設ける樣に只管骨を折つた◆然るに此の至誠公心に發した事業に對し蔭に廻つて記者を誹謗したり惡宣傳したり何かと惡戲をした者があつた◆記者は之を一笑に附して着々歩を進めたが其後平壤を去るに臨み讀書會の存續と簡易圖書館の設立を條件として一切の事を平壤商議所の當事者に依托した◆處が大連に來て間もなく平壤の篠田治策君（當時は平安南道廳の内務部長であつたが其後同道の知事となつた）と宮川五郎三郎君から引繼條件が總て履行されぬと云ふ通知があつた◆記者は此の通知に接して憤怒したが大連からは何うする事も出來ないので篠田君に賴んで蒐めた圖書だけを敎育會の手で整理保存する樣に依賴した◆同君からの改めての通知に據ると圖書は果して行方不明になつた分が多かつたが篠田君と宮川君の好意で圖書だけは敎育會で保存する事になつた◆記者が滿洲社會事業研究會の必要を唱説し先輩各位の賛助を得てこれを創設したのも不敏乍ら至誠公心に基づいて居る◆到らぬ人間であるから毀譽褒貶の的となるのは仕方がないが特に虚構して中傷したり惡宣傳したりする者があると聞いては頗る不快に堪ねない◆併し良智を發揮するには一面邪念と鬪はね

ばならぬ天日を現ずるには妖雲を排せねばならぬから常に惡魔と鬪ふの勇猛心がなければ善事を現實化する事は出來ないと心窃に覺悟して居る◆雜誌『大陸』は記者が大正四年態々滿日社を出て出資者である石本翁が當時家政整理のため廢める筈であつたのを引受けて遣る事になつたのだ◆勿論翁の物質的援助で支ゑて來たのだが『大陸』を手離す迄の約七年間といふものは大陸經營のために並々ならぬ心血を注いだ◆のみならず大正十一年一月からは全然獨立して記者の瘦腕一ツで『大陸』を支持し滿洲社會事業研究會の成るや發起人各位の諒解を得て『大陸』を改めて研究會の機關雜誌にした◆處が世間に妙な誤解をする者があつて問題になつたので研究會の第一回評議員會のとき會長雪齋翁の注意もあつたし竟に『大陸』を手離す事にしそして昨年の九月から研究會は純機關雜誌『滿洲之社會』を發行したのである◆愈々『大陸』を手離すとき石本翁家にこの間の事情を通じ一旦獨立して自分の手に歸したものを從來の恩顧に鑑み潔よく石本翁家に返還したのだ◆『大陸』と記者との關係は大要右の通りの事實だから記者が『大陸』と別れたのを稱して編輯人を辭したの退社したのと言ふべき筋合のもので無いことは明瞭である◆『大陸』を手離す時は愛兒に死別れるやうな何とも言へない悲哀を感じた約七年間も手鹽に掛けて一生懸命に育てたのだから無理もあるまい◆雪齋翁初め先輩各位は十分此の事實を認めて諒とされて居るから慰められるものゝ變妙な事を聞くと厭な氣がする◆併しそんな事に氣を腐らす樣な小さな量見では社會のために働く資格がない毀譽褒貶は世の常として唯まつしぐらに正直に所信に鞭つべきで有らう◆『滿洲之社會』は研究會の會報とも云ふべき機關雜誌で研究會の一部の事業として發行して居るのだ普通の雜誌とは違ふ◆研究會は會員組織の團體だ會の事業は多岐廣汎で雜誌ばかり出して居るのぢやない我々記者は研究會の奉公人として働いて居るのである。



外來思想の批判〔下〕

各種の新思想と其の主義に就いて

文學博士　深作安文

デモクラシーは今日まで人生の種々な方面に適用されて居るが、要するに自由と平等がその根底を成すもので、之を得んが爲めに頻りに叫ばれるのである。仍つて自由と平等とに付いて一言して見やう。自由も平等も之を精究すると其の種類が多いのであるが此には双方の兩端を摘んで說くことにする。例へば自己の胸中に一の欲求が起るとき、之を滿たして良いか惡いかと云ふことを考へずにする事、つまり無反省的に自己の欲求を滿たす事がある。此に飲物があるとすると之を飲んで良いか惡いかを考へずに飲んで了ふ。食物があると直ぐに之を食つて了ふ。是等も一種の自由で之は自然的自由と言つたら可からうと思ふ。自然に發し自然に働くからである。手を出したければ手を出し、脚を出したければ脚を出し、少しも其處に自制又は反省と云ふことが無いのである。又斯う云ふ自由もある。事を爲すに當つて先づ自己の胸に相談する、良心と言はうか、理智と言はうか、兎に角それに相談する、そしてそれが許すとすると、次に社會に向つて諸種の

制度や習慣と云ふものに質ねる、そして其等も許したとする、詰り内外の權威が其の行爲の實行を許可したとすると、如何なる誘惑があつても、如何なる脅威があつても、また如何なる障害があつても、之れに動かされずに斷乎として自己の所信を貫く、斯ういふのもまた一種の自由である。此種の自由は道德的色彩が大分濃厚であるから之を稱して道德的自由と言つたら可からうと思ふ。

今此の二種の自由に付いて價値の評價を試みて見ると、前の自由は其實不自由であつて眞實の自由でない欲求なるものに盲從して了ふ結果、欲求の前に全然意氣地なしに化するからである。之れは表面自由であるけれども其實は不自由である。今日此種の自由は我國民を餘程累はしつゝある。我輩が臺所にも思想問題があると言つたのは此故である。臺所ばかりではない、學校にも、工場にも、電車にも此種の自由がある。一部の心なき國民の自由なるものゝ多くは是である。彼等は自己の欲求を直ぐ遂げ樣とする、若し少しでも傍から制限を加へ樣とすると承知しない、動もすれば己れの權利許り主張して少しも義務に觸れない。之れはデモクラシーの一弊害であつて尠なからず一部の國民の心に浸み込んで居る。元來此種の自由は人類のみならず動物にも存ずる。則ち人獸共通の自由である。然らば道德的自由とは如何と言ふと之れは間違ない自由である。之を內にしては自己の良心を裏切らず、之を外にしては國家社會の制度の前に從順であり、而も此の二種の制限中に於て十二分に己が個性を働かせる。是れこそ立派な自由である。今日我國民が此の自由を有つて居れば大抵の問題は解決し得られると思ふ。現今の我國には良心を裏切らぬ人と社會の制度に從順な人とが極めて必要である。敎育界、政治界、實業界、其他何れの方面に於ても此種の人物は非常に必要である。然るにデモクラシーが輸入されてから、十分に之を硏究せずして何時の間にか送り出して了ひ、而も其の美點は之を學ばず、却つて其の缺點に囚はれた者が多いのは遺憾な次第である。

次に平等についても又兩個の點のあることを論じて見やう。其の一種は次の如きものである。吾人の肉體の一部分たる眼を取つて比較すると誰でも二個ある、手も二本ある、故に人類は皆平等である、自他共に異同が無いと、斯うした平等觀が世間にある。之れは極單純な觀察であるが斯樣な平等觀が事實なか〳〵多い右は肉體の比較だから物質的平等と言つたら可からうと思ふ。又他の平等は前にも一言した通り人格的に見て萬人皆平等なりと云ふ平等である。此の二種の平等觀の中の物質的平等觀は粗笨極まるものである。何故かと言ふと、人間の眼は二個に違ひない、手も亦同樣であるけれども、之れは單に眼と手の數だけで、其の働き方は皆違ふからである。先年東京に砂利喰事件と云ふ大疑獄が起つたが彼れ程の事件が起る間に市會監督の責任者は何をして居たであらう乎。若し當然監督すべき位置に在る市會議員が彼れ程の事件の起るのを知らなかつたとすれば我輩は監督者の眼の存在を疑はざるを得ない。昔は塙保己一と云ふ盲目の國學者は眼開きよりも能く見ねたさうだが、眼があつても眼を働かす力が乏しかつたり、眼の數が等しくとも其の品質が違つたりしては、決して平等とは言はれない。漢學者は「眼光紙背に徹す」と言つたが、夫れは書籍の表を讀んで裏まで見貫くといふ意味であつて、斯くの如き眼は今日の樣な繁劇な時代には甚だ重寶である。手も亦然りで、誰の手も二本であるから、數に於ては平等であるけれども、彼の鈴木辨藏をトランク詰にした手は如何にも慘酷なる手である。之に反して慈善家の手は人を救ふ手である。然るにデモクラシーの新思想は總て物の價値判斷上その分量のみを見て其の品質を見ない。クアンチテートでクアリテートで無い。それ故何でも多數と來る、多數で何事も無理に押通さうとする、隨つて彼等の平等觀には謬つた所が多い。苟くも眞理に適ふて居ることは一人の主張でも尊く、千人萬人の主張であつても眞理に悖るならば價値が無いのだが、デモクラシーの平等觀は兎角玉石を混淆するので宜しくない。

次に人格的平等觀に付て說かんに、人格として見ると人は總て平等であり、隨つてそれが眞理である。物質の側からのみ人を見て說く平等觀は間違ひである。間違ひなき平等觀は人格から行かねばならぬ。元來日本人の道德意識の中には人格と云ふ觀念が極めて貧弱である。日本の道德は家庭中心の生活と國家中心のそれから出來たので、個人なるものは家の中に沒し、また國の中に沒して了つた。其の結果、崇高なる犧牲献身の道德が出來、而して其の階級主義、差別主義の生活は沒我的道德を生じた。此の主義の生活法からすると人を人として見る見方は何うも成立ち兼ねる。然るに今日は何うしても我等の道德意識の中に人格主義の生活法を取込まなければならぬ。我國は東洋の日本國であると同時に世界の日本國となり、隨つて世界思潮の中に存立することを餘儀なくされてあるから、今後は如何なる方面の人でも人を人として見る見方を忘れぬ樣にする必要がある。さうすると一つ議論が起る。それでは在來の社會の規律、秩序が紊れて了はない乎殊に軍人社會では絕對服從と云ふことが必要であるが、人格平等觀から行くとそれが成立たぬことになりはせぬ乎、と云ふのである。我輩は此點に就き斯う考へて居る。人格の平等とは人を事實といふ見方から觀るのである。精神の統一が存在すれば之は人格である。思想、感情、欲求が能く統一を保つて居ればそれが人格である。故に精神病者に非ざる限り人は皆人格を備へて居る。處が人はまた價値といふ見方から觀られる世人動もすれば彼の人物は大きい、彼の人物は小さい、彼は高尙な人格である、彼は劣等な人格であると言ふ。此の高下大小といふ判斷を下すは人を價値の點から見るのである。價値から人を見るのと事實から人を見るのとは違ふ。大人格、小人格、高い人格、低い人格、それは人の面が違ふやうに違ふ。然らば此の價値は何處から來るかと云ふと、敎育からも來るし、道德からも來るし、智識からも來るし、又技術からも來る兎に角此の價値なるものは先天的條件が尠なくして後天的のそれが多い。何人も孜々として努めて已まなけ

れば自己の價値を無限に擴大することが出來る。されば人を治めるもの人を率ゐるものは第一に自己の價値を增すことに努める。其の努力の如何によつて價値に差異を生ずる。人格は事實上の見方からは平等であるが、價値上の見方からは不平等であつて、而も此の二者は兩立して戾らない。

以上は抽象的說明だから更に少しく具體的に述べて見やう。東鄕元帥が日本海の海戰に於て偉大な勳功を建てた時、その後或所で其の歡迎會を開いたことがあるが、其の際幹事の一人が起つて元帥の偉勳を稱讚し元帥あるが爲めに我日本は今日あるを得たと云ふ樣なことを述べた、すると、元帥は立つて答辭を述べ、唯今の讃辭は不肖の敢て當る所でない、今次の勝利には二個の原因がある、一は歷代神靈の御加護、他の一は部下將卒の忠烈なる行爲である、若し予に幾分でも勳功ありとすれば、それと同じ勳功は軍艦の底に居つて汽罐の中に炭塊を投ずる火夫にもあると言はれたさうだ。祖國の運命を双肩に擔つて居た元帥と眇たる一火夫とは、之を職制の上から見れば非常な差があるけれども、人格として之を見れば全然同一である。我輩は東鄕元帥の右の答辭なるものを聞いて、元帥が彼の如き偉功を樹てられた理由此に在り、元帥が將に將たる器である所以も亦此に在り、而して日本海の大勝利は道德の勝利であると思つた。東鄕元帥の部下は皆元帥に心服し、水兵の中には元帥を「阿爺」と呼んで居た者もあつたさうで、隨つて將卒の間柄が父子の情を以て繫がれて居つた。然るに敵師ロジエストウエンスキーは何うも部下の信賴を得てゐなかつた樣だ。然れば日本海々戰の勝利は道德上の勝利である。東鄕元帥が多數の部下を己が手足のやうに動かしたのは道德的に卓越せる人格を有する結果である。元帥と火夫とは職制の上から言へば提灯と釣鐘程に違ふけれども人格の上に於ては平等である。元帥は此理に徹して部下の尊敬と信賴とを一身に集めたのだ。之が則ち人格的平等と價値的不平等とが一致して戾らぬといふ事の實證である。若し元帥の心を以て心とすれば、內閣の大臣でも

地方各官廳の長官でも、銀行の頭取でも、會社の社長でも、部下が信頼せぬと云ふ樣なことはは決して無いと思ふ。今後人の長たるものは特に力めて自己の人格を高むるに努むべきである。

デモクラシーの解説は以上を以て終結とし之から近代の新思想に對する批判を試みて見やう。前章に於て我輩は社會主義に二種あると言つたが、其の一種は社會的政治的社會主義で、之れは階級撤廢、特權打破を主張するものである。然るに他の一種の社會主義は次の如き論を唱へて居る。人が文化生活を營むに當つては、たゞ社會的に政治的に自由平等を得ただけでは可けない、此の自由平等は何うも長持ちしない、兩者を永續せしめる爲めには經濟的に之を得なければ可けぬと、斯う云ふのである。つまり人の文化生活には經濟が非常に肝要であるから人は經濟的に自由と平等とを得なければ何事も徒爾であると言ふのだ。此の主張は數多の新思想を盛んに發展せしめた。また實際から云つても社會的政治的の自由平等は經濟的の自由平等を伴はなければ成立たない。我等は經濟的の自由平等を得なければ可けないと云ふ此の思想を經濟的社會主義と稱する。之から論ずる所の大部分は此の經濟的社會主義である。

此の經濟的社會主義の一種は國家社會主義である。之は國家の有利な事業を一私人に委せて置くときは其の者は富むけれども他の者は富まない、從つて貧富の懸隔が起つて良くない事象を生ずる。それ故、有利な事業には國家が主として之れに當り、其の所得を以て適切なる種々の社會事業を經營し、一面には産業組織を改め、他の一面には貧困者を救濟する。又その所得を以て國家の經營を試み、成るべく人民の膏血を絞らぬやうな策を執る。畢竟社會主義の主張を國家が實現しやうとするのである。此の主義は獨逸のワグナーと云ふ學者が主張し之を實行したのは一代の經綸家ビスマークである。彼は此の主義に基いて鐵道國有を斷行し、次いで煙草の專賣を實行しやうとしたが、之れは刀圭界に激烈な反對が起つて實行不可能となつた。其

他獨逸では森林や鑛山等の方面にも此の主義を實行した。國家社會主義は日本に於ても夙に採用され、鐵道國有、煙草專賣業となつて現はれ、新領土臺灣では樟腦、鹽、阿片の專賣を總督府が經營して居る。此の主義は日本に思想問題の起らぬ前から既に實行されて居るのである。然るに他の社會主義者は之を嘲つて、斯くの如きは國家が自己の意志を行ふ爲めに財源を有利な事業に仰ぐのであつて、即ち政府の利益を主眼として居るから、國家社會主義に非ずして國家資本主義であると言ふ。即ち彼等は之を以て眞實の社會主義とは認めないのである。或は又之を官僚的社會主義と稱する者もある。

共產主義も亦一の經濟的社會主義であつて今日歐洲では中々有力な思想となつて居る。共產主義は如何なる議論をするかと言ふと、眼前の社會を觀るに、種々な害惡が起つて居る、此の社會的害惡の源を探つて見ると、主として貧富の懸隔と云ふことに歸する、富者は益々富み、貧者は益々窮する、同時に富者は驕慢な態度を以て貧者に對ひ、貧者は又常に富者を嫉む、之が社會的害惡の根源である、故に社會を救濟する爲めには貧富の懸隔を除かねばならぬ、如何にして貧富の懸隔を除くべきかと言へば、先づ私有財產制度を廢止すべきである、その之を爲すには、人民の動產、不動產及び生產機關を擧げて國家社會の共有と爲し、何人も勞務に服して、各自の生活に必要なだけの收入を國家社會から受取る、則ち生產、所有、分配及び消費を總て共同とする、尤も病者、小兒、老人等は働かないでも宜いが、其他の者は何人も皆勞務に服し、其の所得は共同の物として、各自の生活に必要なだけを社會や國家から仰ぐ事にする、斯くすれば社會の害惡が除去し得られると、斯う言ふのである。此の主義に就て一應是非を辯じて見たい。

或人は共產主義を以て徹頭徹尾惡いものであると言ふがそれは粗大な觀察である。共產主義は若し之を行ふ人に智識があり、道德があり、更に信仰があり、其上その人數が寡なければ、之を行つても害がない。右

は歐羅巴の中世に天主敎の僧侶が實行した所で宗敎的共產主義と呼ばれて居る。東京九段の曉星學校は佛國天主敎の僧侶が經營して居るのであるが彼等も之を實行して居るさうだ。之を以て見ても共產主義を全然惡いものと言ふのは當らない。然れど之を一國に施すことゝなると非常に危害がある。其の理由は種々あるが爰には主なるものを擧げて見やう。凡そ人間が其の職務に勤勉であるのは、自己が額に汗して働けば働くほど收入が增し自己の財產が殖ゐる、相當な財產が出來れば、生活に餘裕が生じて、道德、學問、宗敎、藝術などの方面にも力を盡すことが出來る。斯種の人々が社會の中層卽ち中堅を形造れば其の社會は立派な社會となる。然るに共產主義は此の重要な事實を無視して顧みない、そして共同に生產し、共同に所有し、共同に消費しやうとする。何程働いても各自の所得を平等とするので、之を矢野龍溪氏は異勞同給制と呼んで居るが、頗る適稱であると思ふ。斯くては人が段々勤勞に服せぬ樣になる。人が働かずして懈ることは之を國家の立場から言ふと產業不振と言ふことになる。國家の產業が振はなければ物資が缺乏する。物資が缺乏しては生活が苦しくなるから之れに續いて來るものは勞働强制である。卽ち無理强ひに人を働かすことになる是に至つて共產主義は明かに矛盾に落込むのである。經濟的自由經濟的平等を得やうと欲して却つて勞働强制といふ自由と平等と相容れない結果に陷るのである。勞働は强制されては有效に運ぶことが難かしい。此理を事實上から極めて明瞭に吾人に示して居るのは現時の勞農露國である。露國はマルクスの革命的共產主義を國家に實行して遂に今日あるを致したのであるが、旣に勞働强制であるから、露國には產業軍隊と稱するものが設けられて居る。之は勞働者を軍隊仕立にして戰爭の積りで勞働せよと强ひるのである。革命後の露國において最も苦痛を感ずる所のものは物資の缺乏で、之を補はんがために產業軍隊を設けて勞働强制を行つて居るのであるが、之がため個人の自由と平等とが甚だしく蹂躪せられ、之より生ずる弊害も亦決して

尠くないのであるから、勞働强制の共產主義には贊成し能はぬ。

次に集產主義に就いて一言する。共產主義は前述の如く之を國家に施せば大失敗に終はる外ない。其上此の主義は人の生活を餘りに機械化して了ふ。生產から消費まで悉く國家なり社會なりが容喙するからである。そこで生產と分配との二者を國家社會に託して所有と消費とを私人に委せる主義を生じた。之が集產主義である。此の集產主義にも二種あり、其の一は報酬を平等にするもの、其の二は仕事の功程に準じて報酬に差等を設けるものである。矢野龍溪氏は後者を同勞異給制と言つて居る。蓋し共產主義の弊を救ふ一方法は同勞異給制である。仕事の功程の多い者には報酬も多くし、之に反して功程の少ない者には報酬も寡くし、そして所有と消費とは各個人が隨意にする。之が集產主義の同勞異給制である。今之が是非に就いて簡單に論ずると、此の主義が共產主義の弊を救ふ點は可いけれども、而も之を實行する上に就いては多少議論がある。集產主義の主張は成程道理のあるものではあるけれども、人が產業に從事して成功する場合を考へて見ると之には餘程個人の手腕力量が關係する。則ち需要供給の關係を能く考へて、目下世間では如何なる物を要求するかと云ふことを調べ、迅速に之を製造して供給する、斯くして始めて成功することが出來る。則ち敏活に商機を捉へるのである。然るに國家や社會が生產に從事することゝなれば、何うも此の敏活といふ事が望めない、更に突き詰めて言ふと、仕事が官僚化せぬかと云ふことが問題である。さうなると折角の仕事も效果を收め難くなる。集產主義も可いが此邊の事を餘程注意しないと失敗する。

更にマルクス主義に立入つて考へて見るに、此の主義は中々場面が廣いので、研究者の興味を惹くこと鮮少でない。マルクス主義は經濟的社會主義の一種と見られるがマルクスは此主義を主張する上に哲學から出發して居る。それは唯物史觀と稱するもので唯物論の立場から人類の歷史的發展を考察したのである。則ち

人類の精神的生活は物質的事情に支配されると言ふのである。先づ歐羅巴の古代を見るに、希臘では奴隷が衣食住の事を擔任した爲め、自由民は政治、法律、藝術、哲學と云ふ樣な方面に專心努力することが出來た歐羅巴の文化は其の源を此に發したのである。此の歷史的事實に立脚してマルクスは人間の精神的生活は經濟上の事情に左右されると云ふ說を立てた。之れは確かに嶄新な見方である。轉じて中世に移ると、當時は一方に封建諸侯があつて政治の方面を擔任し、他方に僧侶があつて信仰の方面を受持つて居たが、其の諸侯と僧侶とが安んじて自己の任務を遂行することが出來たのは、農業專門の農奴があつて衣食住の供給を爲した結果であるので、マルクスは同じ論法を以て中世の人間の精神生活を說いた。然らば近世は如何と云ふに勞働者が資本家に使役されて物資を作るので、彼は遂に資本論を作るに至つた。資本は何うして出來たかと言ふと、マルクスに從へば、之れは勞働者が作るのだと云つて、色々難かしく說いて居るが、企業主が勞働者の製產した物品へ値を附ける時に其の價値は製產費を超過するを常とする、例へば一個のコップの製產費を六錢とする、之を店では十錢に賣る、すると四錢だけ超過する、マルクスは之を剩餘價値と稱し、資本は此の剩餘價値が積り積つて出來たものである、隨つて資本の起源は勞働に在りと、斯う說くのである。勞働者は一日六時間働けば自己と自己の家族を支へることが出來る。然るに今日は八時間制がなかなか問題で採用した所もあればせぬ所もある。マルクスは六時間と言つて居るが事實今日の勞働者は十二時間も働いて居る。それなら十二時間分の報酬を得て居るかと云ふと、然うではなく、僅かに半分の六時間しか酬ひられず殘餘の六時間は酬ひられない。此の酬ひられぬ勞働をマルクスは「不拂勞力」と言つた。そして前の剩餘價値は此の不拂勞力が生んだものであると云ふ所からして、企業主なり資本家なりは其の資本を勞働者から掠奪したのであると說く。或學者は此の掠奪を絞取又は搾取と呼んで居る。

以上はマルクスの資本論の根本である。斯る事情よりして現社會に於ける富の分配は極めて不公正となつた。然らば現社會は宜しく之を改造して人々の住み甲斐ある社會と爲さなければならぬが、如何にして改造すべきかと言ふと、マルクスはそれに二個の方法を授けて居る。一は政治上にデモクラシーを採用しなければならぬと云ふ事、二は經濟上に共産主義を採用しなければならぬと云ふ事である。從つて彼は共産主義者となる。此の主義は無論資本階級の喜ばぬ所であるが、喜ばなければ革命の方法に依つても之を實行しなければならぬと彼は說いて居るので、遂に革命的共産主義と呼ばれる樣になつた。彼は其の同志エンゲルスと共に共産黨宣言を書いたが、それに十箇條の綱領があり、其の中には相續權を否認すること、重き累進率を以て所得稅を課すること、銀行を國立にすること、交通機關を國有にすること、工場及び生産機關を國立にすること、産業軍隊を組織すること等が記されてある。目下の露西亞の勞農政府は此の革命的共産主義を實行したのである。勞農政府の總理レーニンは熱心なるマルクスの祖述者で、陸海軍大臣トロツキーも又マルクスの崇拜者であるため、それでマルクスの革命的共産主義を文字通りに實行したのである。尤も其後ネツプなる新經濟政策を立てゝ多少づつ資本主義を加味する樣になつた。

一轉して無政府主義の批判を試みやう。之にも二種類ありて、其の一は個人的無政府主義であるが、此の主義に於ては個人が絕對主權を有して居る。かるが故に個人を支配する外的權威は之を否認しなければならぬ。自己を支配するものは自己あるのみであるからだ。之れは一人に依る一人の支配を主張するもので、何處までも自己なるものを完成し、充實せしめ、外的權威の支配を排斥するのである。其の二は社會的無政府主義である。此の主義に從へば、今日の社會組織は甚だ良くない、階級に立て籠つて人を虐げるものが多い又今日の社會は政治的に悪い許りでなく經濟的にも缺陷がある、富豪が貧者を苦しめるからだ、今日の社會

には政府と法律との二者があつて中央集權的政治が行はれて居るが、我等の理想的社會情態は政府を戴かず法律にも支配されない社會情態であると、斯う主張するのである。こゝで鳥渡注意するが無政府主義なるものは必らずしも暴力を以て現在の政府を顚覆することを主張せぬといふ事である。日本の文字で無政府主義と言ふと、暴力に訴へて現在の政府を覆へすと云ふ風にも解されるが、必らずしも爾うではない。尤も此の主義が濫用されると暗殺、放火、其他の暴行となつて現はれるから、此點には注意を要するが、本來の無政府主義に基く所の理想的社會、理想的國家なるものゝ實質は難物で、隨つて一朝一夕に實現を期し難いのでバクニーン又はクロポトキンの如きも大いに努力して徐々に行はなければならぬと言つて居る位である。要するに無政府主義は今日現在の政府を顚覆しやうとするものではない。

之に對し簡單な批判を加へて見ると無政府主義は人と云ふ概念に於て徹底して居ない。政府なくして生活の出來る人、法律なくして生活の出來る人は、果して我等と關係聯絡のある人かと言ふと、決して然うでない。其等の人々は我等と餘程違つて居る。從つて我等は彼等の理想を理想とすることが出來ない。元來人は物心の統一體であつて何等かの樣式の共同生活を遂ぐるものである。物卽ち肉體は人間構成要素の一であるが、之は考へ方によつては實に厄介なもので、我等は先づ毎日三度づつ食はなければならぬ、次に衣服を以て身體を掩はなければならぬ、又家を以て住居とせねばならぬ、則ち衣食住の三者は人類生活に缺ぐべからざる三大要件である。茲に於てか、我等には衣食住に關する欲求が起り、起れば之を充たさなければならず之を充たすには種々に努力せねばならぬ。而も人類は其の本性として他の同類と共同生活を營むものであるが、共同生活と同時に、各自の欲求が同一方面に向つて進んで行く結果、衣食住に關する欲求が他人のそれと衝突して來る。然るに甲の欲求だけを充たして乙のそれを許さぬと云ふことは出來ない。何人にも其の欲

求を充たさせることが必要である。されば其等欲求の整理といふことが必要で、若しこれを整理しなければ弱肉强食の慘劇を現出する。此の欲求整理の必要から政府と法律とが發生したのである。今日まで幾多の民族が地球上に現はれ、其の民族によつて國家を成したものは、必ず政府と法律とを有する。政府なく法律なくして濟む人間は我等の樣なものではない。然るに無政府主義は我等人類の共同生活に必要なる政府と法律とを無視するのであるから虛誕空想たるを免れない。政府と法律を要せざる人間の生活情態は空想であつて理想たる價値が無い。人類が何うしても政府と法律とを要することは文明の進步と犯罪との關係を調査すれば知られる。人の敎育が進めば犯罪行爲が減じて可い道理であるが文明の進步と犯罪の數とは大體において併進して居る。無政府主義の採るに足らないことは明瞭である。

近來我が國民の思想は餘程落着いて來たけれども併し猶ほ二種の思想に支配せられて居る。其の一は社會主義で其の二は共產主義である。無政府主義の思想を抱くものもあるが夫れは極めて少數である。予はデモクラシーから說き始めて社會主義、共產主義、無政府主義まで槪略の批評を試みたが、今飜つて是等の新思想を通觀すると、其間に一の共通點のあることを發見する。それは現實の生活は誠に苦しいから何うにかして今一層良い生活をしたいと云ふ欲求である。此の欲求から種々の思想が生まれ、夫等の思想を實現せんため危險過激なる革命手段も起るのであるが、成るべく短時間内に欲求を充たさうと云ふは、元來無理な話で遣つて見たところで滿足な結果を得るものでない。露國の革命が之を證據立てゝ居る。然らば日本國では叙上の欲求が果して充たされるであらうかと言ふに、過去に於て充たされた許りでなく、現在に於ても充たされ、又將來に於ても充たされ得るであらうと我輩は信ずる。何故かと言へば我が皇室の政治の御方針が德治主義であらせられるからである。德治主義とは仁德を以て國を治める主義であつて、既に神代の時より一貫

し來り、歷聖の之を遵守し給ふ所である。人類生活の根本思想は此内に悉く含まれて居る。然るに近來マルクスやエンゲルスの社會主義、共產主義、バクニーンやクロポトキンの無政府主義が我國民の思想に浸潤し來つたのは、資本主義の跋扈、貧富の隔絕、社會制度の固定化と之より生ずる民衆生活の苦惱等に職由するも、一は國民自ら日本の國體を理解せぬ事と新思想の是非善惡を冷靜に色別せぬが爲であらうと思ふ。デモクラシー可なり、種々の新思想を研究する亦可なりだが、それと同時に、大いに社會政策を實行し、惡制度は之を改め、國民生活の安定を一般的に庶幾することが何よりも急務である。我國體の精華を發揚して之を國民に周知せしむる所以も亦之を措いて他にないのである。(完結)

滿洲の社會を視察して

法學博士　松井茂

社會問題は我邦一國の單純なる問題に非ずして世界的の緊要問題である。殊に滿洲の如き支那と密接なる關係を有する土地柄にあつては此の事業の振否は日支兩國親善のうへにも至大の影響を與ふるものと信ずる山縣前關東長官、土岐總長始め關東州の關係諸氏が豫てより赤十字事業其他各種社會事業に對して多大の注意を拂つて居られたことは勿論である。又故人となつた早川前滿鐵社長も此種の事業經營に趣味と熱心を持つて居たので、内務省にても有爲の人物として認められた牧野虎次氏を同社の社會課長に聘した。現任川村滿鐵社長も滿鐵社長に就任する前は内務省の次官であつたし、且澁澤子を會長とせる社會事業協會の副會長の職にもありたる人なれば、將來は必らず滿洲に於ける社會事業の爲め大いに貢獻さるることと信ずる。余

は一昨年始めて滿洲の觀光を試みたが、何分にも短時間の視察に過ぎなかつたから、滿足に批評するの資格を有せぬけれども、今玆に二三の事項に就て所感の要旨を述べて見よう。

(一)滿洲の赤十字事業

奉天の赤十字病院は種々の沿革を經て大正九年五萬圓の建築費を投じて落成を見るに至つた。本病院は七科に分れて內科、外科、產科、婦人科・小兒科、眼科、齒科となつて居る。支那人は常に感謝の念を持つて之に對し、一度入院して全癒するときは、其後も折々病院を訪れて敬意を表すると云ふ事である。中には感謝の餘り額面に書を認めて之を病院に寄贈する者などもある。滿洲には肺結核患者が非常に多いから、結核療養事業も將來看過すべからざる緊要事業の一と言ふべく、阿片吸煙問題も國際警察上並に人道上閑却すべからざる案件で、我國は殊に隣邦の誼を以て此問題に關し多大の注意を拂はねばならないが、是等の點から云つても奉天を始め其他支那人と關係深き地に於ける赤十字事業の擴張は日支親善上偉大な效果があることを信ずる。奉天に於ける我邦の赤十字事業に對しては、前述の如く支那側の評判殊の外宜しきも、經營上に就ては多少の困難を感じ居るらしい。奉天の赤十字病院は十年前の創設に係り、比較的身分ある支那人が入院し加療し居るのは悅ぶべき現象で、張作霖氏の家族の如きも、罹病の際は同病院に於て診療を受けて居るとの事である。同院では邦人の看護婦をも養成して居るが、支那人の看護婦練習生の如きも、今後は一層奬勵敎養するの必要があると信ずる。滿蒙に於て此種事業の擴張を圖ることの效果あるは勿論で殊に今後は多數の救護所を處々に設置する事にせねばならぬ。日本醫師の居住せざる地に於ては其の效果特に著るしきものがあるから此等の設備は將來一層奬勵したいものである。猶ほ赤十字病院の支那人に對する施療事業は、現在より一層之を擴張し、民衆に直接接觸する支那巡警の如き者に對しては無料施療と爲し、其他學校衞生等の爲めに銳意盡瘁することにしたい。我邦に於ける小兒死亡率の高き

ことは、最近統計の示す所であつて、頗る憂ふべき現象であるが、支那に於ても同一事實が存在して居るから、兒童保護、姙産婦保護等の社會事業も必要であると思ふ。

(二)滿洲の消防事業

社會政策上、衞生施設と共に火災豫防並に消防事業の忽緖に附すべからざるは、今更論ずる迄もない事であるが、之に就ての余の所見を陳ぶれば次の如くである。

滿鐵會社の消防 先づ大連の消防設備を見るに、滿鐵本社に於ては自衞の目的より常備消防十五六名を置き、其外滿鐵附屬地に於ても別に消防施設を有し、殊に奉天は消防經費一ヶ年貳萬圓、常備消防員三十名であつて、其中には支那人も採用されて居る。尙ほ消防器具中自働車ポンプ一臺も大正八年以來備へられて居る。泉龍藏君の說に據ると、曾て奉天停車場附近に火災のあつた時、從來の義勇消防では效果が薄かつた爲め、其後新に常備消防を設置することになつたとの事である。尙ほ消防夫は傳染病豫防、汚物掃除等の仕事にも隨時使用されて居る。右は經濟上最も宜しきを得たる方法であつて之を伯林に於ける消防事業の古代の沿革に徵するも其揆を一にする所がある。伯林に於いても昔は消防夫が道路掃除等の仕事を兼業して居つたのである。又有名なるエッセンのクルップ會社に於ては常備消防夫が會社の事業に屬する種々な車輛の運搬事業の監督其他の雜業に從事して居る。消防事業の運用は經濟と至大なる關係を有つて居るから、奉天に於て消防事務の側ら其の消防夫に衞生事務を行はせて居るのは、蓋し當を得たる方法であると信ずる。尤も將來消防事業の發展に伴ひ夫れが專門的に分離する時期の到來すべきは言ふまでもない。また滿鐵附屬地に於ては職工や雇人が自治的に一定の制服を着て消防に從事して居る。猶ほ何れの市街地にも大抵水道が設けられてあつて、その水道に消火栓の備へがあるは勿論、中には立派な新式の蒸氣ポンプを備へて居る處もある滿鐵會社の所管たる各工場及び埠頭等には別に義勇消防の設備がある。

關東州の公設消防と滿鐵の自治消防とは、互に相協力して動作し、其の監督は關東廳所屬の警務署に於て之を行ふて居る。民衆に共同一致の自治心を養はしめる爲め、歐米各國に於ては何れも消防事業に重きを措いて居るから、滿洲に於ける消防事業も今後倍々向上せしめるやう努力を望まざるを得ない。因みに滿洲の火災は十戸以上燒失することは稀であつて大連の如き屢次火災あるも餘り延燒の虞が尠ない。右は畢竟その家屋の構造が煉瓦造りであつて且その建築の整頓せる結果である。大連には建築規則が施行せられ住宅、店舖、其他の建築は悉く當局の許可を要することとなつて居る。此點は内地の其れに比して頗る見るべきものがあると共に同地方の火災豫防上大いに人意を強うするに足る所である。

大連の公設消防　之は關東廳警務署の直屬であつて常備消防組織である。警部補一名之れを管掌して居る朝鮮京城の消防機關は、消防主任たる小熊警部が主として其の運用の衝に當り、其の設備も亦頗る見るべきものがあるが、大連の消防事業は之れに較べると少しく劣つて居るから、今後大いに發展活動せんことを希望する。大連には蒸氣ポンプ一臺、水管馬車十臺ばかり備へられてあるが、消防費は一ヶ年一萬五千圓といふ少額に過ぎないから日本内地の米澤市にも及ばぬ譯である。大連水道の給水力は強いとの事なれども、消防器具の現況が斯くの如くなる以上、未だ完備せりとは言へないのである。余が視察當時聞いた所に據れば遠からず自働車ポンプを購入するとの事であつたが、其後果して如何なる情態にあるであらう乎、それは余の知つた所でない。猶ほ大連市の消防費は關東廳の地方費から支出せられ、州全部の地方費の一部分を占め消防の建設物は大正六年の建築に係り、消防の幹部中には十年以上も勤續せる熟練者があり、又支那人をも雇ひ入れて居る。其他補助的消防手として羽衣組百人を計上して居る。今や日本内地に於ても、各地到る處に消防氣風が活動し來り、殊に其地一流の人々が自ら進んで組頭となると云ふ有樣で、消防器具の如きも着

着改良されつつある。是れ畢竟するに火災豫防及び消防の思想が何れも民衆の自治的精神より發露し來るべき性質のものであるからだ。殊に大連の如き特殊の地位に在る市邑に在りては其の消防組織と消防夫の訓練が内外各地の都市に比して遜色なきやう特に市民諸君の憤發努力を切望する。

(三)滿洲の警察行政

直接民衆に接する警察官吏は其の國民の風俗慣習に通曉してこそ始めて能く其の職分を全ふし得るのである。されば滿洲各地在勤の警察官吏は先づ支那語を覺え更に土地の風俗及び習慣を知ることが第一である。余は日支兩國の警察官吏をして互に相提携せしめんが爲めに豫て東洋警察協會設立の必要を説いて居るが、幸にして此事が實現せられ、彼我相親和して互に丸腰となつて握手するに至らば、兩國民間の感情も自から融和し、相互の風俗習慣も容易に諒解され、國交上にも豫想外の良結果を齎らすべきことと信ずる。此の理由よりして、余は警視廳奉職時代から支那人に對して熱心に警察上の智識を注入することに務め、また私立大學に於ても支邦學生に對し警察法の講義を爲した。民衆警察の實を擧げるにも土地の事情の内地と異なる滿洲の如き處においては其の土地の言語、風俗、習慣を知ることが第一の要務である。警察行政は何れも社會事業に關係を有して居るが、滿洲地方に於ては、國際的關係よりして特殊の考慮を要する點が多い。例へば阿片取締の如きは人道上の問題であつて、從來或は上海に於て或はヘーグに於て國際的阿片會議が催された程で、今や國際聯盟の問題にまで移つた程であるから、滿洲の阿片に對する警察行政には特に注意を要するのである。馬賊又は海賊に對しても刑事警察上特殊の考慮を要するは勿論、風俗警察に關係した事にも種々手心を異にすべき點が多い。随つて滿洲の警察組織は頗る混雜して居り、巡捕といふ巡査の補佐役があつて、主として滿鮮人より成り、之が運用も決して簡單ではない。余は常に滿洲警察官の立場には多大な同情を表して居る一人である。

滿洲の社會事業に關する關東廳の施設は余の寡聞なる其の多くを知らない。極めて不振であるとの説もある。そこで邦人側の社會事業は批判外とし、支那人側の經營に係るものについて述ぶれば、先づ第一に大連市の宏濟善堂を擧げなければならぬ。宏濟善堂の社會事業は主として鰥寡孤獨の者を收容し、棄兒や誘拐婦人等をも救助して居り、關東廳からは補助を與へて居る。次は奉天の同善堂で、これは支那人獨力の經營に係り、貧民を保護し、また藝妓酌婦の誘拐より脱し來りたる者、棄兒及び浮浪者なぞをも收容して居る。殊に棄兒の救濟方法は頗る完備して居る樣に見受けた。其他種痘の施療なども行はれて居る。

(四)支那人側の社會事業

就中余が特に深く感じたのは賣春婦の收容所で、これは明治二十三年頃から着手されたと云ふ事であるが、支那では兎角婦人の誘拐が甚だしいので、特に彼等を救護するの目的を以て設置されたのである。年齡は十二三歳乃至十七八歳位のものが多い。余は平常斯くの如き施設の必要を感じて居るので、之を視察したる時、感激の餘り計らずも此等の婦人に對して「貴女等は幸ひに救濟されたのであるから、希くば自今身體を强健に精神を健全にして良家に婚嫁されて欲しい」と一言して置いた。今や國際聯盟成立の結果として婦人の人身賣買は人道上より益々世界の重大問題となり來つた。今日でもアルメニア地方には此等陋習が行はれ、聯盟の問題になつて居るが、支那に於ても屢々同一事象を目擊するのである。同善堂の社會事業は此點において進歩的のものであると言へる。尙ほ同善堂には乳兒の宿舍があつて之を嬰孩宿舍と稱して居る。又孤兒を保育する學校をも視察したが其處には孔子を祀つて玉聖先崎と書いてあるのを見受けた要するに奉天の同善黨は比較的進歩した社會事業の機關である。

余が滿洲視察は時日切迫のため細かに實況を調査するの機會を得なかつたが定めて今日では種々の社會的施設も行はれて居ることと思はれる。地理上日支間に特殊な關係を有する滿洲に有つては、我帝國の立場か

ら考へても、各種社會問題の研究及び各種社會事業の發達進歩を計らねばならぬ。昨年中大連の重なる人々が發企して滿洲社會事業研究會を設け、多岐廣汎に亙りて總ゆる社會問題を研究し、之が機關雜誌として「滿洲之社會」なる月刊雜誌の發行を見るに至つたのは、社會問題及び社會事業に關する智識の普及宣傳上多大の效果あるべきことを信じて疑はない。余の爰に述べた事柄は滿洲に在る人々には少しも珍らしくない事であらうが、東洋の文化扶植竝に向上のため余は滿洲に於ける各種社會問題の研究を盛んにし同時に凡ゆる社會事業の勃然として振興し來らんことを切望するものである。

幼兒の死亡と其の保護施設

池内勝里

一昨年七月白耳義の首都ブラッセル市に於て開會されたる第二回國際少年保護會議に於て、各國の委員によつて少年の精神的保護、小兒の衞生保健、異常少年、戰後孤兒の四問題に付いて愼重なる審議が遂げられ其際會議場に於て我委員の提出に係る私生兒保護、活動寫眞問題、低能兒敎育、母子扶助法等の諸問題等をも併せて論議された筈である。此事ありてより、兒童問題に關する我國人の注意は漸次喚起さるるに至つたが、未だ幼稚の域を脫せない。然るに歐米にあつては久しい以前から該問題に對して官民共に深甚なる注意を拂つて居るので、其の施設としても極めて見るべきものが多いのである。

試みに大正九年度に於ける我國の兒童保護に關する施設を擧げると左の通りである。

名稱	事業數	救護人員	名稱	事業數	救護人員
胎兒乳兒及幼稚保護	八	一一、八三四	特殊兒童保護	一二七	七、二二八
兒童相談所	二	四、四二三	感化事業	五三	二、一〇四
晝間保育所	八三	四、九〇五	盲啞事業	七二	三、二八五
貧兒教育	九二	一六、一七七	低能兒教育	三	六七
勞働兒保護	四	一九五	產兒保護	一	三一、七六〇
兒童遊園其他	二	—			

であつて、現在兒童保護事業費として道府縣郡市町村費から支出して居る金額は、九年度に於て三十三萬三千六百に十圓である。之を大正六年度の僅々十一萬圓に比すれば長足の進步を示して居るけれども、英國の公費による救助兒童數二十五萬八、其の經費一千五百萬圓、佛國の救助兒童數二十萬人、其の公費一千四百五十萬圓に比すれば、其の懸隔の餘りに大なるのに喫驚せざるを得ないのである。

兒童の保護並に救助に關して、我國と英佛との間に斯くの如く多大の懸隔があるのは、彼我國情の相違と今一つは人口問題とが其の最大原因である。卽ち我國は家族制度であるに反して、彼等の國は個人制度であり、從つて我は相互扶助の特長によつて互助するけれども、彼等は個人制度のために國家や公共團體の扶助を必要とする場合が比較的多いのである。それから人口問題の事であるが、信賴すべき人種衛生學者の說によると、黃色人種は六十年每に倍加するに反し、白色人種は七十五年乃至八十年每に其の人口が二倍に達すると稱せられて居る。玆に於てか、白色人種は黃色人種の迅速なる人口增加率に絕えず恐怖しつつあると共に、現在當面の生產率遞減に憂慨を抱き、其の結果、極力人工的文化力によつて死亡率の減少を計り、さうして增殖率の低下を防遏しやうと種々の手段を講じて常に努力して居る。是れ彼等が兒童保護問題に眞劍となり隨つて其の施設の勃興隆盛を誘起せしむるに至つた所以である。

一例を示せば、獨逸の如きは一千八百七十五年に人口千に對する四一であつたのが、一千九百十四年には二七、五に急轉直下し、英國も一千八百七十六年に二三であつたのが、一千九百十四年には二四に低下して居るといふ有樣で、大體に於て歐洲の人口が漸次低下の趨勢を辿りつつあるのは事實である、之れに加へて這般の大戰の爲めに莫大なる壯丁を喪つた。統計によれば、聯合國の總動員四千四百萬人の中、死者約四百七十五萬人、獨墺側の總動員約二千六百萬人の中、死者約三百萬人を算して居る。これに負傷者約一千九百萬人を合するときは、約二千七百萬人といふ多數に上るので、之が恢復に要する時日は獨國十ヶ年、伊國三十五年、佛國六十五年、英國十年であると云はれて居る。それだけ彼等歐洲諸國が兒童保護に熱心なるも當然で之れに對する寧日なき苦心は寧ろ甚だ同情に値するのである。

けれども、人口問題は單に量の問題でなくして、同時に質の問題であることを忘れてはならぬ。即ち不良種の蕃殖率が如何に旺盛であつても、それは畢竟烏合の衆であつて、富國强兵は勿論、それに依つて社會の堅實なる發達は望まれない。假に優良種の出産兒が三に對して不良種の出生兒が四割合であると、百年後には優良種九分、不良種九割一分となる。斯ういふことでは人口增加は寧ろ呪ふべきものとなる。此の人口問題を背景として產兒制限問題も兒童問題も生れ出て來るのである。幸ひ我國は歐洲大戰に少數の犧牲を拂つたのみで、人口は逐年增加し、寧ろ過剩に苦しむといふ風であるけれども、其の質と量とが果して正比例して居るか如何かは大いに考究を要するのである。されば我國も歐洲各國同樣イナそれ以上に兒童問題に付いては細心の注意を拂はなければならぬものがあるかも知れない。そこで、現在增殖しつつある我國の人口をどんな案排に始末をする乎、又過多の蕃殖を如何にして制限する乎、と云ふ問題は他日に讓り、ここには兒童保護問題に直接關係ある幼兒の死亡に付いて一言したい。

我國の人口增加國たることは世間周知の事實で、それが逐年六十萬人以上增加しつゝあることも周知されて居るが、乳兒の死亡率が世界一の多數に上つて居るといふ事は餘り多く知られて居ない樣だ。最近統計局の死亡調査表に據ると、我國民の死亡總數百二十八萬五千五百七十八人の中、乳兒の死亡は三十三萬五千百四十三人で、全體の約四割弱を占めて居る。我國の乳兒は何故斯く死亡率が高いのである乎、それには種々な原因や事情もあらうが、要するに國民の保健衞生に對する觀念が淺弱なるがためで、民族の堅實なる繁榮に對する無關心の致すところであると言つて差支はあるまいと思ふ。

先進文明國では、何れも競ふて種族の維持に周密なる注意と保護とを加へ、或は多産の家庭に特權を附與したり、或は獨身婦人に課税したり、人口增殖及び人口減防止について色々と强制的方法を採つて居る。從つて乳兒保護の施設も到れり盡せりの觀がある。さればにや、我國で乳兒の死亡率が千人に對して百八十人であるのに、英國では僅かに七十に過ぎず、獨佛兩國に至つては五十と稱せられて居る。更に獨逸の如きは帝政時代に乳兒一人につき地方官廳から每日牛乳五リットルを與へて積極的の保護をした爲め、幼兒の死亡するもの殆ど之れなく、世界で一番の人口增殖國であつたと言はれて居る。

最近内務省衞生局では二百萬圓の豫算を以て新たに乳兒死亡豫防機關を設置するの計畫があるとの事である。折角生を享けた多數の乳兒を暴殄のまゝに今日までも放擲して置いたのは、國家として怠慢の謗りを免れないが、而も遲蒔きながら當局が此の施設に二百萬圓を投ずるに至つた事は、双手を擧げて吾人の賛同する處である。然るに限りなき人口增加の結果、我國の都市人は今や悲慘なる密集生活を餘儀なくせられ、蕞爾たる島帝國には生存すべき立錐の餘地もない樣な感じがするから、先づ此點についての社會施設をなさねば、折角夭折を免れた乳兒も將來却つて死に勝る憂目に逢はなければならぬかも知れぬ。我國が萎縮退嬰に

甘んぜずして對外的に進取發展することを以て國是とし又それを民族の理想とするならば、人口の增殖に對する種々の社會施設をなし、海外への移植民をも奬勵し、また量と共に質を良くする事に注意し、優生學と稱せらるゝユーゼニックスの實現を圖り、生れた兒童をを悉く健全に成長せしむるやうに努力せねばならぬ内務省の計畫に係る乳兒死亡豫防機關設置の如きは洵に機宜の良法である。

人口增殖は憂ふるに足らない、寧ろ益々增殖せしむべしである、と云つて、私は徒らに人間を粗製濫造せよと言ふのではない。生くべき芽を理由なく枯死せしむるは、社會としても民族としても餘りに悲しい事であるのみならず、延いては國家の存立上にも至大の關係を及ぼすから、人工的人口制限の如きは出來得る限り避けなければならぬ。バースコントロールは恐らく問題であらう。社會も國民も與にレースパトリオズム卽ち愛種主義に立脚して、生れ出でた乳兒を十分に生ひ立たしめ、そして之を切愛せなければならぬ。蓋し兒童の愛護問題は嬰兒の死亡を先づ防遏することに第一步の基礎を置くべきものであると信ずる。勿論其の一面において胎兒の保護卽ち産婦の保護も忽緒に附してはならぬ。

翻つて我滿洲は如何であらう乎。試みに關東廳衞生課の調査に係る本年一月中に於ける日本人及び支那人の死亡者竝に年齡調査を揭ぐると、次の樣に戰慄すべき事實を發見するのである。

日本人
一、死亡總數　二百十三名
二、死亡者年齡別　五歲以下百名、六歲以上十歲以下十二名、十一歲以上二十歲以下十八名、二十五歲以下十一名、三十歲以下十一名、其他

支那人
一、死亡總數　一千五百十三名
二、死亡者年齡別　五歲以下五百四十八名、六歲以上十歲以下三十八名、十一歲以上二十歲以下四十二名、二十歲以上三十歲以下七十三名、六十歲以上七十歲以下七十四名、七十一歲以上九十七名

以上の統計によつて見ると、日本人死亡總數二百十三名のうち五歳以下の幼兒死亡者が實に百名に達して居り、支那人側にありても一千五十三名の總死亡者のうち五百四十八名は實に五歳以下の幼兒である。更に其の死因について云ふと呼吸器、消化器、呼吸器結核系の病氣が日支人共通で、神經系病は特に支那人の幼兒に限り最大死因であるとの事である。前揭の如く、內地の幼兒死亡數は總死亡數の四割弱であるが、滿洲の幼兒死亡數は總死亡數の半若くは半以上を示して居る。甚だ悲むべく憂ふべき現象ではあるまい乎。之を思ふとき、家庭に於ける幼兒保育に細心の注意を拂ふ必要を切感すると同時に社會としてまた可憐なる幼兒の死を救ふべき社會施設を必要とすることが明白に分るであらう。

現在の滿洲には社會的事業として殆んど見るべきものなく、偶々有つても經營困難といふ始末であるから兒童保護の社會施設も隨つて見るべきものがない。之れ畢竟するに官民共に社會事業に對して冷淡である結果に外ならぬと思ふ。ダンスや其他の社交に浮身を窶す事を知つても我が愛兒の保育に苦心する婦人が幾人あらう乎。飲食や自動車に惜げもなく金を拂つても悲慘な一家に金品を恵むものが幾人あらう乎。一念爰に及ぶときは心細さを痛感せずには居られない。社會事業の中でも、幼兒の保育は直接何れの家庭にも關係があるのであるから、在滿洲の官民諸君は協力して速かに此種社會施設の實現に努力し、以て萬家のみどり兒をしてすこやかに生ひ立たしめるやうに心掛けて欲しい。



紐育市政調査會

如何に悪魔と闘ひし乎を看よ

▲市政調査會の概念　市政調査會の目的は政黨政派其他の政權上の利害に拘束せられざる有識市民の寄附せる資金を以て専門家を招聘し政府の施政、其の組織、其の方法、其の成績を調査研究して如何にせば一般市民に對し有效なる政治を施し得べきかを講究し且その實行を奬勵するに在り。

▲本會は法人組織　本會は調査研究團體としての獨立性を維持すると共に市政の當局者と協力して市政を改良すべき最も有效なる機關たらん事を期す此の目的を以て本會を法人組織として資金の募集をなし適材を按排して調査研究の方針及び發表方針を講ず。

▲本會設立に到る歴史　上述の概念は本會組織以前に於て既に有識者の考へ居たる事なりしが一九〇一年三月一日紐育ツリビユーン紙が之を社説に於て論ずるに到りてフランク・タッカー氏は其の社説を切り抜きてフルトン・カッテイング氏に送り以て同氏の賛助を求めたり其後間もなくタッカー氏は商業會議所に市政研究の一科を設立せんとする提案を公式に起草してカッテイング氏及び商業會議所の有力なる一員たるチヤレース・スチユワード・スミス氏に謀れり時恰もウキリヤム・エチ・アレン氏の紐育に來れるに際したれば同氏の援助をも求めたり本會の現理事は豫ねて此種の調査研究に從事せしが其の經驗に照らし此種の調査研究機關は市民の後援によつて成る獨立機關にして市政に關する調査をなし得べき十分の便宜を有し市當局者の施設を援助し得べきものとなすべき必要を痛切に感じたり一九〇五年一月の頃本會の現理事が財政及び租税の事に關して市長の顧問委員の一人となるに到りて民間の人士を雇ひて調査研究を

なさしめたる事ありたり。

一九〇五年二月タッカー氏、アレン氏及びクリーブランド氏等は一日晝餐を共にして此の問題を論じタッカー氏の依囑に應じてクリーブランド氏は「市政調査會」設立の趣意書を作製したり該趣意書に基きてアレン氏は屢々專門家及び實業家の會合を催したり九月に到り遂にアレン氏はタッカー氏の援助を以て該趣意書を修正し「市政調査機關設立趣意書」と題して廣く一般にこれを配布したり。

同年の末に到りカッティング氏は一ヶ月壹千弗の割を以て一ヶ年間此の運動を試驗的に援助する事に決しヘンリー●ブルエル氏が其の主任となり豫ねてクリーブランド氏の使用し居りたる役員を用ひ「都市改善會」の名の下に事務を開始したり試驗の結果は良好なりしためカッティング氏は資力に富めるカーネギー氏並びにロックフェラー氏を勸誘し一九〇七年遂に本會の設立を見るに至れり。

本會はカッティング氏、タッカー氏、アレン氏、クリーブランド氏、ヂョーヂ●マクネニー氏、リチヤード●ワットソン●ギルダー氏、エドウキン●アル●エー●セリグマン氏及びカロル●ディー●ライト氏を維持委員としブルエル氏は最後の理事となりアレン氏は維持委員の秘書となつて寄附金の募集及び廣告、出版、其他發展方面の任に當りたり其後二ヶ月を經てクリーブランド氏は專門的研究方面の理事となり同時にアレン氏の秘書役を理事の資格に變更せり。

▲本會の方針　本會を設立したる當時は市政咀呪者の聲高く殊に後の有名なる生命保險に關する醜聞の未だ市民の耳朶を去らざる時にしてリンコン●ステフエンの如き評論家は市政の腐敗紊亂に就いて最も激烈に忌憚なく彈劾の筆を鳴らしつつありたる時なり。

然れども此等の彈劾記者や咀呪者は何等建設的批評を提供する事なかりき之に反し調査會の創設者は建設を目的としたり市政の腐敗紊亂は理論上固より市當局者の責任なれども事實彼等は如何とも爲し得ざる境遇に在る事をも認めざるべからず彼等は十分の豫備智識なくして殊更に其の責任を果すに困難なるやう仕組まれたる繁雜なる市政の渦中に投ぜられたるものなる事を察せさるべからず調査會の創設者は此間の事情を認め市政紊亂の責任は其の根本に於て市の當局者に非ずして寧ろ市民に在る事を認め從つて有識市民の組織的

努力以外に市政の腐敗紊亂を匡正すべき勢力なき事を認めて茲に本會の設立を謀りたるなり。

前記タッカー氏以下三氏が本會設立のために寄附せられたるは本會の趣意に賛同したるが故なり即ち市政の組織、方法、運用及び成績を調査研究するため政黨政派に關係なき獨立の役員を雇ひ入れ徒らに市政を彈劾し或は非難することを避けて調査研究の結果を市當局の前に提供せんとする本會の趣意に賛同したるが爲なり。

故に本會はその方針に(第一)事實の調査書を當局に提出し若し當局に於て不同意の點あらば之を指摘すべき事、(第二)上述の事實調査に基き公平なる批評を當局に提出する事、(第三)當局より依頼ありたる場合には上述の批評に基きて改善及び改善の理由を當局に提出し當局と協力すべき誠意を示す事、(第四)公職に在る者と野に在る者とを問はず時機に應じて各方面の人士(必要あらば政黨政派の首領連とも)と會して意見を交換する事、(第五)一應當局者に考慮の機會を與へたる後にあらざれば一切調査の結果をも提案をも公表せざる事、(第六)假令本會が敵(タマニー派即ち市會の横暴派を指す)の非難攻撃を受けたる場合と雖も決して政黨政派爭鬪の渦中に加はらざる事等を擧けたり以上の趣旨を以て起たんとする本會の事業に一九〇五年初めて財政上の援助を與へたる人は前記カッテイング氏一人なりしことを茲に特筆するの必要あり。

▲敵の非難は本會の廣告　茲に本會の名聲をして紐育市以外にも嘖々たらしめたる一の興味ある事件あり本會創設の當時には紐育市政はタマニーの勢力下に在りたり此の以前より慣例によりて納税者は市廳の記録を閲覧する權利を有し市の憲法にも亦此の權利を認めたり然るに事實は之に反し市民より閲覧の請求ありたる場合には大抵許されざりき是に於て本會は市の記録を檢閲せんとするが如き徒勞を試みずして戸外何人の目にも明かなる市の事業其物を調査せんとする方針に出でたり此の調査のため選ばれたる事業はマンハタン區の道路行政なり本會は調査の結果を報告したれども市の當局者は本會の代表者を引見せんとする意向さへも示さず乃ち止むなく本會は右の調査報告を公表したり本會の第一の試練は此時に在りたり敵は一擧に本會を葬り去らんとしカッテイング氏を對手取りて十萬弗

の名譽毀損訴訟を提起せり。

訴訟の提起者はマンハタン區長アハーン氏なりアハーン氏も區の法律顧問も會計課長も等しくタマニー派系の人物にして市の報告書類を獨占して本會の調査を誣告なりとする位置に在りたり本會の運命は暗雲に鎖されたる觀ありたれども幸にして一縷の光明を見る事を得たりそは市長マクレラン氏はタマニー派の首領と好からず又アハーン氏とも和せざる間柄なりしため獨立の法律家を擧げて事の調査に當らしめたり此の法律家は後に紐育市長となりて名聲嘖々たりしミッチエル氏なり氏は市の書類を檢閲して曩に會計課長の作製したる報告とは正反對の報告を作りたり市長の命によりミッチエル氏は進んで公開の調査會上に於てアハーン氏以下關係人を訊問しその報告を州知事ヒユーズ氏の許に提出したり知事は更に關係人を招喚して訊問をなしたる後遂に區長アハーン氏を無能の故を以て免職したり米國に於て官吏が無能の故を以て免職となりしは之を以て初めとすカッティング氏に對する訴訟は自然敗訴となり又此時以後納稅者の市の記錄を檢閲する權利は正確に維持せらるる事となれり。

然れども本會に對する敵の譏謗は其後益々猛烈となり次の選擧期にはタマニー派は本會を "Breare of Municeipal Besmerch「市政塗泥會」と稱して全市に亙り大々的中傷廣告を行ひたり其の一例を擧ぐればタマニー派は某所に於て見世物興業をなし内部を本會及び本會關係人を罵詈讒謗したるポスターを以て滿たしたり殊にカッティグ氏、カーネギー氏、ロックフエラー氏其他二十名に達する本會の寄附者等は「市政の塗泥會」を利用して輿論を支配し市場の相場を變動せしめ依つて以て自ら利せんとする惡魔の如くに描かれたり。

二ヶ月に亙れる敵の中傷廣告は偶々以て市政調査會の概念を紐育市民及び紐育市外に廣告するに止まり本會は勞せずして宣傳の目的を達したり此の二ヶ月間本會は絕對に沈默を守りたるに拘らず寄附金は求めずして集まり地方都市の諸種公共團體より本會の援助を求むるものも亦續々として到來せり選擧期の過ぐるを待つて本會の理事は又本會の關係者五十八人を招待し本會は創立の趣意に從ひ政爭渦中より超越して然も其の使命を發揮し得たる事を祝したり此の祝賀會に於て熟議三時間の後委員を定めて以後五ヶ年本會を維持すべ

き資金募集の議を決したり。

▲紐育以外に於ける活動　本會は最初專ら紐育市政調査研究の目的を以て創設されたるものなれど前述の如く敵の中傷的廣告は期せずして本會を紐育以外の地方へも宣傳するの結果となり斯くて地方より援助の依賴を受くるに至り最初は斷はりしが軈て維持員の協賛を經て建設的調査研究を行ひ得る見込ある地方に對しては本會の專門家を派遣して之を援助する事となせり過去十ヶ年に亙り本會が手を附けたる都市は米國加奈陀を合して四十箇所以上に達し本會に倣ひて市政調査會を設置したる都市の數十五に及び一九一六年の春には Institete of Qorerument Research を組織して中央政治の調査研究をも行ふ計畫となしたり。

▲其他の事業　本會は一般行政方法に就て科學的參考書の必要を感じ特に其の目的のため資金と職員を設けて任に當りたり研究の範圍は更に州政に及び本會は州政調査研究のため特に資金と職員を設けたり調査研究の範圍が遂に中央政治に及びたる結果としてタフト氏が大統領たりしとき本會理事の一人及び職員の一部を借りて經濟調査委員會を作りたる事を初めとし大統領ウヰルソン氏の時にも當時稅關長たりしミチェル氏の提議によりて同樣の調査を關稅政策の上に及ぼしたり尚インデアンに關する施政に就ても議會の委員會は本會職員の援助を求めたり。

次に本會の事業として記すべきものは行政役員公吏養成所なり本會の職員は地方よりの要求に應じて派出せしむるため常に缺乏勝ちなるより本會の維持員は養成所設立の必要を感じたりしが遂にハリマン夫人は此の目的のために率先して寄附をなし養成所の設立を見るに到りたり其後ハリマン夫人の例に倣ひて三十五名の寄附者あり茲に五ヶ年繼續の資金を確定せり養成所は法律學校、工業學校、商業學校、其他の專門學校の卒業生を容れ公私各方面の執務に携はるべき候補者を本會職員の下に在りて修業せしむるを目的とす。

本會創立以來茲に十年の歲月を閱す初めて紐育市を目的として生れたる本會は今や殆んど全國的の調査研究事務を營み又他に十五個の同種機關の設立を見るに到れり此等姉妹機關の聯結は同一の目的を以て同一の試練を經たる人物に依て自然に維推せらるる外何等利害關係によりて拘束さるる所なし尚最後に特筆すべき事は創立の當

時本會は政府側より猜疑の目を以て迎へられたれども一般社會も政府も漸次本會の趣意を了解するに到り而して今日に於ては本會の事務の半分は政府側よりの依賴によつて行はれつゝある事なり。

本會の性質を再說す　一九〇六年のアーハン免職事件と其後のタマニー派の中傷廣告は期せずして本會の性質を博く世間に傳ふるの結果を齎らし本會を殆ど全國民的機關として注目せらるるに到らしめ紐育市民のみならず地方民の信賴をも博したる事は既に前章に述べたるところの如しされど誤解を避くるため玆に本會の性質を一層明確に再說するの必要あり。

本會は紐育市政の一部に非ず又之と何等の官公的關係を有せず營利事業にもあらず個人の私有物にもあらず又何等の特殊利害關係によつて支配されず試驗的性質のものにも非ず。

本會は時の要求に應じて生まれ而して既に其の設立後十ヶ年存續の光輝ある歷史を有す。

本會は市民に對しても政府に對しても協力の精神を以て專門智識に基ける忠告及び援助を與へんとする所の官治的にあらざる公民的共有機關なり。

本會の紐育市及び紐育州に關する仕事は此の目的のため紐育市民及び州民の寄附せる資金によつて營むものなれば政府より報酬をも受けず又政府當局者よりの寄附をも受けざる事を主義とすされど紐育以外の地方に對する仕事に就ては該地方より實費を支拂ふにあらざれば求めに應ぜず本會の資源に限りあれば之は止むを得ざる事なり。

本會は他の公共事業と次の二點に於ては其性質を異にす。

本會は行政の調査研究を專門とし此の目的のため技師、會計士、醫師、其他公園、消防衞生等の行政に就き特に專門智識ある者を職員とす。

本會は左記の一點に於て政府の機關と其性質を異にす。

本會は行政の改善に就て政府當局と協力すべしと雖も其の資格は政權とは全然獨立のものにして從つて政黨政派の利害に何等關係なし。

本會は他の專門智識を供給する機關とは次の二點において自ら其の性質を異にす。

本會は營利を目的とせず又何等特殊の利害關係者のために使用せられず本會は紐育市のために盡すと雖も市とは何等の雇傭關係を有せず又地方に對して援助の手を貸すに當りては該地方の誠意及び恒心を以て其の條件となす。

▲**非難に對する辯明**　敵の罵詈讒謗は偶々以て本會の宣傳を爲すの結果を齎らしたることは再三述

べたる如くなれども尚ほ本會に對する非難の聲は絶えず現狀を解剖して改善手段を講ぜんとする機關が現狀の擁護者より非難さるゝは蓋し自然ならむ斯る非難に對して辯明をなすの必要はなけれども本會の趣意を徹底せしむるため一應非難者の論點を點檢せん。

政府側の非難者の論旨は下の三點に歸す、(一)本會の事實調査報告は杜撰にして誤謬甚だ多し(二)本會の批評は不公平にして誤解を招ぎ易し、(三)本會の建設案は非立憲的にして同時にまた費用倒れのもの多し。

以上の三點は非難者の口癖なるが本會は創立の當初より特に此等三點の非難を避くる方針を採れり卽ち本會の調査報告及び批評をして有效ならしむるため常に問題の論點を正確に突き止むべき手段を講じ來れり本會の慣用手段は前章にも說明したる如く先づ事實のみの調査報告書を作製して之を當局に提出し若し不正確或は不完全の點あらば當局者に於て之を指摘し修正すべきは修正し增補すべきは增補するの機會を與へ居れり斯くして先づ雙方に於て異議なき事實調査を完了し若し意見を異にする場合には其要點を正確に突き止め置き次に此の事實調査に基きて批判報告書を作製す而して此の批判が不公平なりとの謗を防ぐため先づ之を當局に提出し當局をして改正の理由ある點は之を改正せしめ意見を異にする點には其の意見を附せしめて問題を明かにし出來得べくんば報告を公表せずして解決の道を講ぜん事を期す蓋し改善の意志ある當局を保護し援助する事は本會の目的なればなり。

本會の建設案が提出せらるゝ時は當局は既に十分問題を研究すべき機會を與へられたる時なり若し本會の提案にして非立憲的なりとの謗あらば非難者は宜しく本會の提案によつて犯されたる法文を明示すべし若し又本會の提案にして非實行的なりとか費用倒れなりとかの謗あらば非難者は宜しく實例に徵して考ふべし創立以來十餘年に亙り本會は五十餘の都市及び數州の政府並に中央政府と提携して調査を行ひたるのみならず諸外國政府の施設及び會社、工場、其他の施設を調査するため十萬弗餘を費し諸例を蒐集して最も有效且經濟的なる提案を作製し得る材料を有する事を認めざる可らず。

本會に對する民間の非難者は要するに次の三種類に歸着す。

(一)專門上の利害關係ある者は本會の設備は不完全にして其の

役員は未熟なりと誇る、(二)政黨政派の利害關係ある者は本會と本會の役員を非難するためには手段を選ばず、(三)本會關係者に敵意ある者や又物識り顔をしたき連中は標語 Pique を智識として流言蜚語を恣にす

第一種類の非難者を防ぐため本會は本會の使用する役員の智識、經驗、人物に就ては要求に應じて調査の自由を許し且役員人名錄を附して一般公衆の參照に資せり本會の調査研究は悉く記錄として保存しあれば非難者は問題を指摘して果して本會の研究方法は未熟なりや否やを檢することを得べし第二又び第三種類の非難者に對しては辯明の必要を見ざるなり。

されど玆に創立の當初より本會に對する非難の目標となり來れる僻見に就て特に辯明し置くの必要あり僻見とは本會を以て資金寄附者の傀儡なりと見做しカッテイング氏を始めカーネギー氏やロックフェラー氏は本會を利用して公益の假面を被つて私利を圖りつゝある惡魔なりと想像する事なり本會は未だ嘗て寄附者の姓名を隱匿せんと試みたる事なく(評者曰く彼の寄附者の姓名を隱くして寄附金を受領する政黨政派の弊の如きものを避くるに注意せし點)今日までも屢々寄附者の人名錄を發表したり尙ほ此の僻見の無根なる事を證するに足る三つの理由あり第一本會の維持委員中には本會の創立者たるカッテイング氏を除きて外に資金寄附者を含み居らざること第二選擧期などには此種の非難絕ねざるに拘らず事實に於て如何なる市當局も就職後施設方針に就きては本會の援助を迎へたる事、第三過去十餘年に亙る歷史に於て本會は一度も此種の非難を裏書きさるゝが如き事實を暴露したることなき事是れなり本會の活動舞臺の年々擴張し行くは卽ち本會の信用の裏書きにあらざるか。(完)

朝鮮の衡平社

憐むべき朝鮮の白丁

內地における水平社の人間禮讃運動に刺戟されて朝鮮慶尙南道の一角に衡平社と稱する解放運動の團體が組織され千餘年の永い間不合理な忍從と壓迫の世界に押込められ社會的、經濟的の冷遇に泣い

てゐる全鮮の白丁階級（特殊部落民）四十萬人の自覺を喚起するに至つた朝鮮における兩班（貴族階級）及び常民等の上層階級が彼等を壓迫し侮蔑することの如何に甚しきものあるかは次の衡平社の決議の一部を讀めば肯かれる。

現在朝鮮の白丁階級者の受けつつある侮蔑は我々白丁をして卑、貧、劣、弱、賤、屈等の現代の有りと有らゆる社會の劣等を意味する言葉が恰も我等の境遇を説明し表徴するために造られたかの感ある位である此の差別的待遇が人間冒瀆であると知るとき我等の血は勢ひ熘々として燃え上らざるを得ないのだ。

▲衡平運動の發端●●●●●● 彼等白丁は柳行李の製作を正業とし牛豚を屠ることを其の副業としてゐる父祖傳來の青龍刀に似た牛刀はその世襲財産であり且つ身分を證明する唯一の品である性質は善良で義理堅く父親が死亡すると例の牛刀を研ぎ上げてこれを祭壇に飾り滿三箇年の間は何といつても屠獸をしないなどゝ云ふ奇習もある衡平運動の起された直接の原因は慶尙南道の晋州で學校建設資金の寄附を申出でた白丁の或者に對し「お前等は人間ぢやないから寄附金は受附けぬ」と世話人が刎ねつけた事にあるらしい白丁の歷史とその起源は正確でないが高麗朝時代に既にその階級があつたさうで少くも一千餘年の昔、戰敗國の俘虜を壓迫して勢力を奪ふために萬人の嫌がる賤業を强ひ差別待遇をしたものであらうと云はれてゐる然し現在の白丁の多くは滅亡した高麗王の子孫や遺臣の子孫等であつて之がために彼等は社會から虐げられながらも尙「我等の血統は美しい」と云ふ誇を失はずにゐる。

▲白丁の受くる侮蔑●●●●●● 朝鮮で白丁を侮辱する言葉に「犬は知つて居る」といふのがある其意味は白丁は人間でないから犬が見れば吠えるので直ぐ判るといふので李朝時代には全然人間並の取扱を受けなかつたものだ例の馬尾で造つた朝鮮人の冠る天神樣然とした「笠」なども冠ることが許されず竹を細く割つたもので造つた「平凉子」といふ變テコな冠物を戴き常民以上の家の門内には如何なる急用があつても入れず途中で若し常民に出會すると頭を低げ土下座して道を讓るといふ有樣であつた。

▲解放への悲劇●●●●● 日鮮合併後法令上の差別は撤廢されたが社會からは依然として侮蔑を受け彼等の階級のみでする結婚と彼等のみの交際との世界は悲慘な忍從の生活

を續けてゐるのである昔は白丁の成功者が兩班の株を錢で買ひ世間態を胡麻化すために田舍から遥々訪れて來た老いた父を見も知らぬ狂人だと云つて縛り上げて苦しめたといふ血のたるやうな事實もあつたさうだが今日でも普通學校(內地の小學校)の生徒が同級生に恥しめられて憤死したり折角結婚したばかりの花嫁が白丁だといふので婚禮の晩にその式場から離緣になつたり子を一人前の常民としたいために切つても切れぬ父子兄弟の緣を絕つてまで我が子、我が弟を世に出さうとする果敢ない努力は數へるに遑のない位であるとの事である因みに此の運動に對して總督府の有吉政務總監は彼等の運動の手段が合法的に行はれる間は之れに對して何等高壓手段は執らぬと言明してゐるげな。

支那の勞働組合法案

發布實施期は不分明である

過般支那政府は勞働組合法案を作成して之を衆議に提出した其の全文は左の通りである。

第一條　同一事業に從事する勞働者は生計の維持を謀り利益を增進する爲めに本法に依つて組合(協會)を組織する事を得

第二條　勞働者組合(工人協會)は法人組織と爲す

第三條　組合の事務は次の如し

一、會員の扶助事項
二、雇傭條件の改善事項
三、勞働狀況の調査事項
四、勞働の立法行政に關し政府に意見の陳述
五、行政官署の諮詢に回答

第四條　組合は必要に應じて分會を設くることを得

第五條　組合を設立するには十人以上の發起者を要し會則を作成して所轄地方行政官署の許可を請ふべし、國有或は公有事業の組合は主管機關の許可を得て該所轄地方行政官署に屆出づるを要す願書には發起人の姓名、年齡、本籍、職業竝びに其の現住所を認むるを要す

第六條　組合の會則は次の如き條項を備ふるを必要とす

一、名稱
二、事務所の所在地
三、組合の事務
四、會員の資格及び會員の入會退會の規定
五、職員の人數、職務、選擧、任期及び退職の規定
六、會期及び決議方法
七、經費
八、解散の理由

第七條　會則を修正する時は組合議決を經て第五條の規定に依つて許可を請ふべし

第八條　組合に於ける職員の選擧及び議決せられし事項は所管地方行政官廳に屆出づ可し、國有或は公有事業の組合の場合は前項の外更らに所管の機關にも併せて屆出づるを要す

第九條　所管官廳において必要と認むる時は吏員を派して調査せしむることを得

第十條　所管官廳の許可を得ずして組合を組織したる時はその組合を解散せしむるのみならず併せてその發起人を十元以上百元以下の罰金に處す

但し事の分明したる場合には本法の規定により許可を得て改めて設立することを得

第十一條　本法規定に依り報告すべき事項を怠りたる者は五元以上五十元以下の罰金に處す

第十二條　組合の議決或は其他の法令に違反せしものある時は所管官廳は之を取消さしむる事を得組合之を取消さざる時は官廳は之を禁止する事を得

第十三條　組合の決議或は決議に基く行動に次の如きものある時は官廳は之れに解散を命ず

一、政治組織を亂すもの

二、公安を防害するもの

三、公衆の生活に向って危險を及ぼすもの

四、交通を妨害し或は國家社會を害するもの

第十四條　本法の施行細則は政令を以て之を定む

第十五條　本法は公布の日より之れを施行す

滿洲 結核豫防會總會

滿洲結核豫防會の第三會總會は五月二十一日旅順博物館において開催せられた先づ順序として午前十時より評議員會を開き關東廳醫院長下瀨博士、飯島軍醫監、其他各評議員出席し淵田警部は狀況の報告をなし大體の要旨を打合せ置き夫より午餐會に臨み午後一時より總會を開いた中山警務局長議長席に着いて開會を宣じ次いで藤原衞生課長は事業成績報告をなし斯くて提出の會則修正案を附議し多少の議論出てたるも午前の評議員會で豫め打合せて置いた通り修正案を通過し二時閉會を告げ夫より講演會に移り下瀨博士は約二時間に亙りて熱心に結核の恐るべき所以を說き一同を傾聽せしめた支那人も大分出席し婦人も四五名見受けた本年度より滿鐵と關東廳から每年二千圓宛の補助金を交附する事となり既收の會費に預金利子を加へ每年四千五百圓の收入となるので追つて適當の方法を以て事業を始めるさうだ會員の現在總數は三千七百餘名に達し內一千三百餘名は大連支部の會員である。

（柴田本會評議員報）

社會問題彙報

不良兒の個性を研究善導

不良少年少女は年々殖ゆるばかりで東京や大阪では市内だけでも三四千人が警察の黑表に上つてゐる之等不良性の未成年者のために昨年は特に法律を以て少年審判所を設け着々成績を擧げてゐるが内務省社會局では更に進んで之等不良少年少女に善導感化の實を擧げたいと云ふので最近新しい方法で全國五十三箇所の感化院の不良兒を主として精神上、生理上、社會上の三點から詳細な調査が始められた將來は國立精神鑑別所を設置する由だが右につき社會局石田第二課長は一何れ調査の結果を纏めたうへ詳しい發表が出來るでせう國立精神鑑別所と云ふ樣なものもその結果で或は設置するかも知れません現在の感化院は不良兒の個性にお構ひなく同じ樣に感化してゐるのでなか〳〵成績は擧がらないのですそれで今度は不良兒の個性を主として感化善導したいと思ひます」と語つた。

職業婦人の新生面を開拓す

家が貧しいから仕方なく職に就く金持の娘だからぶら〳〵して遊んでゐてもよい此の何れものお座なりの氣分を一掃して新しき婦人生活の態度を造らうと云ふ理想で羽仁モト子氏の經營する東京の自由學園高等科卒業生は全然從來何處の女學校にも見たことのない方法でその第一歩を踏み出した名は研究科だが是迄のやうに書物や机の上の研究に止まらず其の才分に應じて己がじゝ一つの職に就いた卽ち岡内壽子さんは「子供の友」の記者に岡田禮子さん、松井靜子さん、橫山まつ子さんの三名は「婦人の友」の記者になつた畑きよ子さんのやうに自由學園の數學の助手になり内藤けい子さんのやうに理科の助手として働く者もある幸橋わか子さんは牛込成城小學校の英語の外人敎師の助手として働らき其他無報酬で幼稚園の保姆として活動する者もあると云ふ具合で二三の結婚をしてゆく者の外は殆ど職に就いてそれ〴〵働らいてゐる。

併し此等の職業婦人は何時から何時まで勤めてどれだけの仕事をすると云ふ普通の束縛された職業婦人ではなく何れの婦人もその修學に於てはより高きを望むので研究科生として打揃ふて授業を受けるのみならず一週十二時間の授業で自分の好きな學科を充分研究する水曜日の木村莊八氏の美術の講話、木曜日の杉森孝次郎氏の社會問題の講義と一問一答で頭腦を磨くと云つた事や帝大敎授末弘嚴太郎氏の法律の講義等は藝術と思想と社會に理解ある婦人を作る爲めに設けられた斯うして研究した事を職業の上に現はして而もそれ相應に報酬が受け取られるので研究科生の熱心さは一通りでないとの事である。

夏家河子に理想的社會施設

滿鐵會社では夏家河子に種々新しい試みをして同地を民衆化せしめ夏季に於ける一大樂園地にせんと苦心畫策中で今年から愈々實現の一歩に進む由であるが同所に海濱學校及び海濱ホテルの設立を願ひ出てたる大連市霧島町レ區三八林親時氏の主旨が全然營利的でなく公共的で滿鐵の方針にも合致するので其の請ひを容れ願書通りの許可を與へた同氏の案に依ると先づ第一期の計畫として海濱學校たる海濱館を七月一日迄に建築する豫定であるが同館の建坪は百坪バンカロ式の二階建で館

內には寢室、自修室、食堂（一食十三錢見當）浴場（海水、淡水の二種）、圖書室（新聞十種、雜誌月刊・週刊十種及び婦人、兒童雜誌、圖書）、教室、娛樂室、（蓄音器、トランプ、碁、將棋、ピンポン）等を設け館外には無料納涼臺、無料脫衣場、日光浴湯、運動場（機械體操、遊動圓木、ブランコ、木馬、テニスコート三箇所、婦女子投球外に三十張の投網、、騎馬等を準備して館に宿泊する學生のため隨意に使用せしむる由で滿鐵當事者も林氏の計畫が全く理想的で其當を得て居るから大いに激勵して其の施設の完成を圖ると同時に一面充分に監督取締をなすとの事である。

アロツトメント・ガーデン

公設市場や八百屋に現はれてゐる商品としての野菜や果實は家庭婦人の眼に痛いほど每日觸れてゐる併しそれ等の蔬菜や果實が如何にして栽培せられ如何なる手續きで市場へ出るかは都市の人々には丸で理解されてゐないその結果日常生活に極めて大切な食物としての果實や蔬菜についての正しい鑑賞眼を缺くこととなり每夕の食膳にも單に機械的に相對することとなる此の缺點を補ふべく大阪府立農事試驗所で計畫されたものが家庭園藝組合の建設である大阪府立農事試驗所の所在地である堺市の郊外に設立された此の家庭園藝組合園は約八畝の土地が十七家族によつて共有せられ其の中央に共同花壇と共同休憩所があつてチューリップやヒヤシンスやフリージヤ等の草花が美しい種々の色彩を見せてゐる此の共同花壇は農園の美觀を保つと同時に組合員の家庭に花卉を供給するもので其他の土地は別に共同苗床を設くる外これを八區に區分して各一區十七八坪の土地に一家族或は數家族によつて季節々々の蔬菜や果樹が植つけられてゐる農會では時々作業場に必要な注意をなし平素は農夫一人を雇入れて手入れをなさしめ組合員には入會費十圓、每月會費三圓五十錢といふ極めて安い代償によつて此十七八坪の土地から家族全體に新鮮な蔬菜と空氣と日光と運動とを與へられるのである同試驗所長たる三木技師は次のやうに語る。

私等の計畫した家庭園藝組合は英國のアロツトメント・ガーデンを組合化したもので元來英國のアロツトメント・ガーデンは十九世紀の農業革命により土地を失つた農業勞働者が生活の安定のため日常食糧品の自給策として設けたものが變化して專ら都會人の趣味と健康のために郊外で木曜日の午後や日曜日の休日を樂しむために供せられることゝなつたものでイングランドとウエールスのみで大戰前に五十萬あつたアロツトメント・ガーデンが戰後には百七十萬に增加して尙旺んにアロツトメント運動が持續されてゐると。

大連に市營新市場を建設

大連市信濃町と山縣通の二大市場だけでは實際市民の便利にはならぬ市民が增加し市街が四方に延びるに隨ひ食糧品を主とせる市場の擴張は當然行はるべきものだとの見解から大連市役所では四箇の市營市場を建設せん計畫を立て既に買地の調査を了り土地代下方に就て民政署へ交涉中である場所は春日町、霧島町、露西亞町、寺兒溝の四箇所で寺兒溝は支那人雜居であるからソレ相當な賣品を陳列させ各所とも鮮魚蔬菜等の日用品を至極薄利で市民に供給しやうと云ふのであるから賣店營業者も信濃町市場のやうに店舖と住宅を別させず地下に貯藏室を作り二階は居住に充て店舖住宅二重の經費が入らないだけ利益も薄くて濟む樣にし一ヶ所の工費を約五萬圓とすれば二十萬圓を要するので之れは滿洲で得たる郵便貯金の中から年四分六厘の低資を借入れ二十年賦で償還するとすれば行く〳〵市の

財源ともなるわけであるが同時に市民の便利も甚大であるから是非一日も早く決行したいものだと市當事者は語つて居る。

愈々活動する少年赤十字團

日本赤十字社では萬國赤十字社聯盟と平和條約第二十五條に基いて健康保全や厄災救護などの事業を從來よりも一層擴張するその第一着手として少年赤十字團を組織することゝなり昨年春以來全國五十一の支部で團員を募集した結果昨年六月に滋賀縣下の二百三十七校四萬五千六百九十三人で少年赤十字滋賀縣支部を設立したのを始めとして同十月には埼玉、十一月には秋田、本年になつてから東京（麻布、牛込、南葛飾）、茨城、福島、福井、和歌山の各支部が出來その團員は合計八萬七千六百人で此外本年中に京都、大阪、兵庫から滿洲までに亘つて二十一ヶ所の支部が出來る豫定で設立を急いで居るそうだ。

少年赤十字團の目的は小學校時代から自他の衛生に注意する習慣を養ふことと品性を向上させて身心の剛健を期すると同時に赤十字の標語たる博愛の精神を涵養するのであつて尋常小學の五六年以上か高等小學の男女兒童で組織し一校一團とし校長が團長、副團長は首席訓導、幹事は訓導、協議員は市町村吏員がこれに當つて先つ赤十字事業の講話、衛生の講話、災害疾病慰藉と手工品の寄贈と内外國兒童との通信交換や印刷物の配布、活動寫眞運動會、展覽會、慈善市、見學等をするので費用は一切本社から支出することゝし本年度は約五萬圓の豫算を計上した而して團員の徽章は赤字に白の十字を現はしてある。

滿鐵慰安衛生展覽會列車

滿鐵社會課と衛生課とが合同して慰安衛生展覽會列車を愈々五月十五日より運轉せしめることゝなつた之に充當される客車は二等車一臺三等車一臺で内部のベンチや棚を撤去し二等を社會課慰藉係主催の慰安娛樂場に二等を衛生課主催の傳染流行病の豫防及び姙婦産婦の手當取扱に關する展覽場に當てられる筈である慰安車の方の陣容は（イ）蓄音機其他娛樂器具の備付（ロ）兒童に繪本玩具の贈與（ハ）演藝には浪速節講談落語（ニ）活動寫眞は夜間撮影等であつて經費と氣候の關係上全線各驛に停留する譯にも行かないので一つ置き每の驛に一晝夜の滯在をすることとなつた此の慰安衛生二輛車は普通列車及び急行列車には連結して吳れないので貨車か混合車に依つて隨時牽引移動するのだが其順序は五月十五日先づ大連を出發安奉線に直行し夫より蚶蟆塘驛を振出しに順次奉天に入り奉天から撫順線を巡廻のうへ又奉天に戻りそして奉天から長春へ向けジプシー見たいな旅を續けられるが之が終れば又も奉天へ舞戻り奉天を振出しに大連へ順次南下しつゝ歸途に就くのであつて此間約五十三日を要するから大連歸着は多分七月六日頃になるだらうとの事である。

常務員としては係員二名、助手二名、小使一名が乘込む事となつてゐるが該列車の停留する地方勤務員は其列車の停留と共に車内に乘込んで諸種の準備をなし或は又家族の慰安に責任を以て努むる筈である此の春季停留をせなかつた驛は秋季に慰問することゝなるが開催每に幾分の趣向が變化するので不停驛の居住者は何れか便宜の驛に見に行けばいゝことゝなる而して慰安車は隨時に運轉出來るやうに何れ特別なものを作られねばならぬが經費と氣候の二大關係に依つて當分は實現困難であるから不自由ながらもそれ迄は此の方法を取るより外ないと係の人は語つた。

消費者協同の小賣百貨店

現在大阪市内には二十二箇所の公設市場が

あつて市民は尠からぬ便宜を得てゐるが郊外には私設のものはあつても公設のものが殆んどなく郊外の住民は仕方なく市內より大抵一二割高の食料品や日用品を買求めなければならぬそんなら郊外の住民は一體どうして此の不利な狀態から免れたらよいか之れについて大阪市役所商工課市場係主任の堀政秀氏は次のやうな消費組合を奬勵してゐる。

郊外の接續町村や小さい都市で公設市場などを設けることは賣上高が少いのと指定價格をきめる標準がないのでヨシ出來たとしても永續することは難しいと思ひますそこで私はコンスーマース・ユニオン・コムパラテイヴ・デパートメント・ストア卽ち「消費者協同小賣百貨店」といふのを作ることをお勸めしたい之れは一つの町なり村の住民全體が寄つて一つの消費組合をつくると同時に一方この消費組合の手で小賣大店舗をつくり組合員がここから日用品を買求める消費組合と店舗の併用をやるのです從來の消費組合は商人のやうに營利卽ち金儲けをすることが出來ぬ上に何んなものでも一つ一つ組合員の宅まで配達するために費用倒れとなつて立行かなくなるのですそこで此の「消費者協同百貨店」では米、炭、醬油などといふ毎日要るが然し毎日買込む必要がなく品質を見ないでも銘柄や値段をいへば直ぐ分るものは注文に應じて配達するが魚類、野菜類などはその店まで出かけて買求めるやうにするのですそして多少原價に利益を見積つて賣ることにすれば店員の給料なども自然に浮いて來ます私は何か機會があれば是非どこかで此の理想的な方法を實行して見たいものと思つて居ります。

亡國病患者は在滿人に多い

國民の心身を蝕毒する所謂亡國病とも稱すべき花柳病患者は概して植民地に多數を占むる傾向あるが滿洲に於ても其の例に洩れず國家の干城たるべき壯丁を始め一般青壯年男女を通じて花柳病患者が內地に比し著しく多いのは國民の保健上並に風紀上由々しき大問題である滿鐵衛生課の磯野氏は語る。

統計に依れば花柳病患者は概して植民地に多い樣である我國で最も同病患者の多いのは沖繩縣であるが滿洲は沖繩縣よりも更に患者の率が多い現象を示してゐるのは誠に嘆かはしき次第である最近の內務省調査に依れば男女一千人に對する花柳病患者率は內地人五十二人七分滿洲在住者約七十人である又壯丁について見るに大正五年に於て花柳病患者は一千人に對し內地は二十五人、滿洲は五十人、同十年には內地十八人、滿洲五十八人、同十一年には內地十七人、滿洲三十三人といふ數字を示してゐる然し一時蔓延の兆を呈した滿洲內の花柳病も逐年漸減の傾向を來たしてゐるのは統計に依つて見るも明かである同病蔓延の主因としては特殊婦女たる藝娼妓の跋扈にあるが更に男子が是等の婦女より病毒を感染し遂に家庭にまで其の病毒を流すのである現在鐵道沿線地には千五六百人の特殊婦女が散在してゐるが同病撲滅の一策としては第一是等の婦女に對し健康診斷を勵行し病毒を他に蔓延せしめぬ方法を講ずることと第二男子は是等の婦女に接近せず性行を愼むことである第一の問題は施設宜しきを得れば實現困難でないが第二の問題は人間のデリケートな性に關する重大事であるから方策を以て之を矯正することは至難であるこれはどうしても道德又は宗教の偉力に依つて不純なる性行の最も愼むべく且恐るべきを各人に自覺させ自發的に豫防法を講ずるのが得策であると。

婦人を集めて衛生上の坐談

醫學的衛生の知識といふものが家庭の婦人に求められてゐる事は實に著しい傾向であつ

て各婦人雜誌が一齊に衛生記事に力を注いでゐる然るに講習や書籍雜誌などで得る知識だけではどうも腑に落ちなかつたり不安で物足りない所があつたりするので近頃では懇意な奥樣方が申合せて密にかゝりつけの御醫者樣に御出でを願つて御話を聞くやうな事が流行り出して來た全く流行といつては輕佻過ぎて叱られさうだが手藝や洋服を御稽古する暇はなくても之れならば無い暇も作られるとあつて此種の集まりがだん〳〵增えてゆく傾向が見える婦人を集めて育兒に關する坐談會を已に一年程前から始めてゐるのは東京麻布の梶谷小兒科醫で同氏は次の如く語る。

派出にやるよりも今は隨時宅に診察を求めに來られた家の夫人たちに集まつて頂いて全く卓を圍んでの會談を致してゐます何うも細いところまで思ひの儘に話しあはなくてはいけないと思つて內輪にむづかしくなくやつてゐる譯ですがぢり〳〵と集まる人は多くなつて行くやうです今に又もつと一般的に開く方がよくなれば他の會場に大家達を聘しても可く子供さんのために御伽噺や劇なども加へて母子共に集ることの出來る樣にもしてみたいと考へてはゐます」と之れに依つて看ると坐談といふ事が大變婦人達には喜ばれてゐる樣であるそれに研究好きの同氏は御伽噺の研究會などにも入つて解り易くする話し方にも夫夫工夫をこらしてゐるが此の集會を聞き傳へて女學校あたりの同窓會などの仕事に試みたいと言ふつてゐる所もあるさうだ。

新設された庶民金融機關

一般民衆の便利に備へんがために東京牛込區では有志三十餘名發起となり有限責任信用組合第一金庫を設立する事になつた此組合の特色は組合員一口五十圓の五十株を限度とし存立期限を二十五ヶ年と定め加入區域は東京市品川、大森、大井、入新井、大崎、目黑、平塚村、淀橋、中野、澁谷、千駄ヶ谷、代々木その他の隣接町村である右に就き一組合員は語る「近頃銀行が一般の中產以下に對して金を融通する場合に抵當權を設定しないと貸さない貸したとしても手續きが非常に面倒であつて一般銀行は民衆の役に立たないソコで此の金融上の缺陷を補ふために私共有志が集まつて庶民銀行に則つて此の金庫を拵へた譯です今のところ會員が五百ばかりありますが事業進行と共に直ちに二三千になると思ふ敢て大きくなる事を望みませんまア小石川、牛込を中心としてやる積りです」と。

木賃宿に巣喰ふ人間の種別

大阪の今宮を縱貫する紀州街道約二町ばかりの兩側やその路地に並んだ木賃宿の數は四十九軒・二疊敷から廣くて四疊半の破れ疊の上を「城」とする男二千八百十二人、女四百十五人、合はせて四千二百二十七人、多い家では百七十五人の人が起居し一軒當りにして八十六人強となるソシて老人は七十一歲から八十歲までが男女ともに十二人づゝであるが貧乏人の子澤山は一歲から七歲までの者が五百七十六人、八歲から十三歲までの者が三百七十三人で合計九百四十九人ある就學兒童は三百七十三人で二割強は不就學となつてゐる然し斯うしたドン底生活から羽衣女學校へ通學してゐる女學生が一名あることは異彩を放つてゐるものと他の注目を惹いてゐる更にこれ等の人々の本籍を見ると何といつてもお膝元の大阪九百六十九人を筆頭に三府四十三縣を悉く網羅し朝鮮人は四十八人ゐる。

職業別では手傳の四百九十三人を第一位として仲仕三百六十三人、鮟鱇百五人といふ筋肉勞働が何うしても多いが中には僧侶十五人遊藝人の廿五人、事務員の十七人もあり東西屋が四人、芝居の道具方が二人、エンヤラヤ

の杭打が三人、默つて歩く旗持人夫が五人、自分の運命だけは判斷の出來ぬ賣卜者が七人戀の辻占賣が十人を數へ名前だけは堂々たる著作業もゐるが實は低級な流行歌の作者でそれは一人きり大道で變な字を書きなぐり一枚十錢二十錢の金を惠まれる書家が二人、諸國行脚の遍路が五人、優しい花賣稼業の一人などが變つた方で總てが百四十種の職業を持つ人々が寄り集まつてゐるとのことだ。

中産階級のための公益病院

東京府社會事業協會では俸給生活者とか其他中流階級の人達のために今度一百萬圓の豫算の下に新しく公益病院を建設する事になつた右につき東京府の岡社會課長は語る。

今日ブルジョア階級では立派な病院で立派な博士連の診療を受ける事が極めて自由であり一方細民や貧困者の爲には比較的完備した施療病院の設けもあるが中流乃至俸給生活者階級では診療を受ける特別の機關がないので之等の階級の人達は可なり深刻の苦痛を嘗めて居る此點に鑑み之等の階級の人達を助けるを目的として此の病院を計畫した譯だ病院の名稱に就てはよい思付もなかつたので公益病院と名付ける事となつたそして此の病院には病床六を設備し一切外來患者をとらず全部入院患者のみを取扱ひその入院料も一日二圓以上二圓五十錢までの本當の實費だけとし若し此の支拂能力さへもない者に對しては無料の取扱ひもなすこととなつて居ると。

郵便貯金に關する民衆運動

大藏省預金部にある十四億といふ巨大なる資金の中殆どその大部分である十二億は何れも中産階級以下の郵便貯金で更に其の十二億のうちの約四割が農村の貯金で三割が一般勞働者等の貯金であるが該資金は殆ど公債社債の背負込みや政商連の爲めにする低利資金等に流用されて事毎に有産階級の利便に供されても一向資金の提供者たる中産階級以下殊に農村一般勞働者等の利益を保護増進する爲めに何等利用されないのは不都合千萬であるとて最近全國三千五百萬の農民は農村研究會を通じて日本勞働總同盟並に其他の勞働團體に右の次第を通告し農民並に勞働者に對する十億の資金開放運動を起すべく目下勞働團體と寄々協議中であると云ふことだが民衆が目覺めて來れば斯うした運動も起るわけで政府は勿論のこと社會の上流に位する人々は此の時代的潮流に十分注意すべきであらう。

等閑に附し難い公園施設

東宮御成婚を機に東京市を初め各都市ではいろ／\な催しを計畫中であるが福岡市では公園新設を何よりも有意義な御慶事記念であるとして市内西中洲その新設公園の地を卜したのを手はじめに其他の各都市においても思ひ／\に公園設置計畫をなして居るのが多いそうだ右につき内務當局者は語る。

最近の調査に依ると日本現在の公園數は六百二十六、總面積一千一百萬坪ある一概に公園と云ふも種類に色々あつて休養公園、小公園、運動場、森林公園、遊園地、逍遥公園、運動場、國立公園等擧ぐれば幾らもある併し日本のは滅茶苦茶で都市では住宅がぎつしり出來てから公園が無理に設立される有樣だから今後は國民の保健を考へて理想的に建設したいと思ふ幸ひ御慶事を機會に各都市が模様替へやら創設を企畫してゐるのは喜ばしい内務省でも此の四公園の調査を手始めに最も利用され易い公園を調べて發表し各都市に奬勵しやうと思ふ田村博士が歸京の上は現在の公園施設に一轉機を與ふべく向は調査を進める筈であると此趨勢から見ても大連市西公園を放棄しておくのは非常な時代錯誤だ。

國立公園と其の設備

農學博士　田村剛

(一)國民休養の地　國立公園は民衆の最も自然的な休養と享樂を目的とした國民的運動場や保養地を設けんとするものである。近來都會生活をする人々が自然的の慰安休養を求むる爲めに公園が發達し來り、又土曜日日曜日を利用して遊覽する爲めに郊外に大規模の公園が設けらるゝ樣になつたが、就中一年を通じての休養地殊に夏期休暇を利用して遊覽し運動し休養する處の廣大なる公園が必要となつた。是れ卽ち國立公園である。外國人の生活は中流階級に於ても一箇月乃至二箇月も休養し得るほど餘裕があるから從つて國立公園の如きも發達して居る我國に於ては斯る餘裕あつて各地を遊覽するは貴族階級に限られて居るが國力の充實と共に民衆全般の生活に餘裕あらしめて長い休養日を與へねばならぬ。最近我國に於ても各地の高山、海水浴、温泉などが民衆的に利用さるゝ傾向を生じ、昨年の如きは登山者の數が倍加し、温泉も名を知られぬ場所が繁昌するような現象を呈した。之は我が中流階級の人々が都會生活の疲勞を休養せんとする傾向を示したもので、此の傾向に應ずる爲めには現在の如き設備では不完全であるから、理想的の土地を選んで設備を施し、之れを民衆に利用せしむる必要がある。之れは

都會生活者に長期休養の機會を與へるのみでなく文化から遠ざかつた土地をして精神的に物質的に開發する事ともなるのである。又之を國際的に觀るならば、國立公園の設備がなされた爲めに外國の遊覽者が增し、それ丈け國民經濟上に利益を及ぼすだらう彼の瑞西が遊覽者を吸收するは斯る設備が完全して居るからである。我國でも年三萬人の外國遊覽者があり、之がために曾て四千萬圓の金を得たことがあるが、若し國立公園を設備するならば、その數倍の金を得ることが出來るだらうと思ふ。

(二)歐米諸國の例　世界で國立公園の最も完備して居るのは米國である。米人は元來遊覽好きの國民であるが、國外遊覽の爲め富の失はるゝを慮かり、國立公園設置の政策を施さんが爲め、國立公園局と云ふのが設けられてある。されば米國には現在十九箇所の國立公園があり、其の最大なるものはヱローストンに存じ、廣さ三千三百四十八哩即ち我が四國の半分位もある。之を一週するには自働車で四五日乃至七日を費さねばならぬ。園內には無數の間歇泉や熱泉、大峽谷、湖水、瀑布などがあり、野獸野鳥、鱒などが棲息して居り、狩獵魚漁の設備も施されてある。國立公園の多くは西部の海岸に存在し公園と公園の間には道路が通せられ、自働車を以て之を連絡し、汽車汽船に對しては各地より遊覽切符を發賣して公園の利用を促して居る。遊覽者數は平均九十萬人以上に達して居る。歐洲の各文明國に於ても、國情に依りてそれ〴〵異なるけれど、國立公園の設けなきはなく、瑞西のクルオーサ公園は面積二萬町步で、アルプス山中一萬尺の高所にあり、動植物、原生樹林等の名高いものがある。又伊太利の如きは全國土を擧げて世界的の公園たらしむべく熱中し、之がために道路、交通機關、ホテルの設備を計畫し、目下その完成に努めて居る。

(三)公園と其設備　國立公園の設備に就ては其土地の狀況に依つて異なること勿論であるが、交通機關と宿泊設備の完備とは最大要件である。國立公園は云ふまでもなく自然の景致の美はしい所を選擇して設くるのであるから、勢ひ交通不便を免かれないが、景致が理想的であつても交通が不便では利用するものが尠いのである。國立公園は長期の休養を爲さしむる場所であるから宿泊設備を良好にして居心地好くせねばならぬのである。そこで交通の設

備としては道路の開鑿改良、自動車の備付等であり大規模となれば鐵道の敷設を必要とすることがある宿泊設備は建物の莊美よりも居心地よきを旨として家庭的氣分を味はしむべきである。道路の開鑿、改良、鐵道の敷設は政府の行ふべき事業であるが、自動車、宿泊設備、物品の供給等は地方關係者が會社を作つて當るのが得策である。但し公園は作られたまゝでは完全でなく、之を利用するものがあつて始めて完全となるのであるから、庭園を作るが如く勝手にやらず、公園の利用者たる國民の趣味と便宜とを十分に慮して設計せねばならない。

(四)日本の候補地　我國に於ても國立公園を設くべく自分は其の候補地を調査して居るが、既に調査したのはアルプス山高地、白馬山、温泉嶽、阿蘇山、富士裾野、大臺原山、盤梯山、日光の八箇所である。外に尚ほ調査する豫定であるが之等のうち幾個所を國立公園に指定するかは未だ定まつては居ない。既に調査した八箇所を通じて不完全なのは宿泊設備である。現在は民衆的に利用されてないのであるから已むを得ないけれども、凡て一二泊することを目的とし、一箇月も二箇月も滯在するように設備されてない、甚だしい所は普通の宿屋の如き設備さへもないのがある。之を要するに國立公園に對する政府の方針は調査中であり、また候補地の設備も直ぐ利用されぬ狀態であり、一面國民の側を觀るに富の程度が低く時間にも餘裕がなくて國立公園を利用するものが多くないと云ふ有樣であるから、今のところ之が機運は急に迫つて居らない。併し乍ら將來の理想の下に今より愼重に研究して我が國民性に適する公園を創造したいのである。

◉**鳳凰城に避暑地を建設**　安奉線の鐵道沿線は滿鐵沿線中に於て山岳多く殊に樹木繁茂し景色に於て全線唯一と稱せられてゐるが滿鐵では早くより此の南滿の景勝地に適當の場所を選み遊覽地を計畫中のところ其の第一期計畫として五龍背温泉場を將來理想的の娛樂園とすべく着々計畫を進めてゐるが今回更に鳳凰城に夏季の避暑地を計畫し總ての施設をなす事となつた右につき牧野社會課長は語る「大連、奉天附近には相當娛樂地も完備し遊客のため意を注いで居るが安奉線には未だ此種設備も出來て居らず甚だ遺憾であるから今回鳳凰城に避暑地を計畫してゐる譯である此の鳳凰城は四方山嶽に圍まれ夏季は綠樹繁茂し既に自然的に一種の避暑地である山嶽の間を流るゝ河は淙々として各地で見ることの出來ぬ淸らかな水が流れ自然の環境を畫いて居る三四哩の地點を置き五龍背温泉を控ひ有名な鳳凰山に接し四季を通じて遊覽者が少くない茲に人工的設備を施した曉は沿線中稀に見る勝地となるであらう」と。

實施さるゝ健康保險法

內務省技師、醫學博士　石原　修

健康保險法は今期の議會を通過した許りのものでその實施期は來年四月、準備の着手がやつと今年の六月一日からといふ始末である。殊にその上この法律は「勅令によつて規定し得」と云ふゆとりが設けてあるので、その一々につき確定的なことは言へないが、大體の要領だけは決定してゐる事だから、發表して差支へない範圍のお話をしよう。

この健康保險法は歐米各國に於て既に行はれてゐる勞働保險の一部である。其趣旨を要約すると(一)被保險者でその疾病、負傷、死亡、分娩に際し醫療給付を要するものには最新の醫療を爲し、(二)猶ほ百八十日間生活の最低保障を與へるといふのであるこの勞働者の萬一の危急を救濟する主義は現に工場法、鑛業法に於て行はれて居る。本法も精神に於てこれと大差はないが併し其範圍が非常に擴大されたことは注目すべき點である。現行の法律では(一)勞働者の不具となつた場合、(二)多人數又は長期間の疾病の場合は、事業主の負擔とならない時があるのを新保險法ではいづれも必ず事業主において其の負擔に任ずとなし、更らに新法では(三)爭議の防止(四)業務上以外業務外の傷害をも負擔するなどゝなり大體以上四項の特色を持つて居る。

被保險者は誰がなるかと云ふに法の規定する工業及び鑛山勞働に從事するものは強制的に加入される且これらの事業に關係して居る門衞、小使、給仕にも及ぼし得る事、危險なる事業、著しく健康を害する業務の從業員も同樣で、この點も現行の二法より遙に廣い範圍を持つて居る。但し日傭人及び收入千二百圓以上のものには適用されない。尙更に「任意半強制」を許し、本法によつて強制的に加入を受けない職工(例へば鐵道工夫、石工等)の一團體の中半數以上が加入に贊成なれば、少數の反對があつても強制的加入を餘儀なくされる。自分の考へでは此の健康保險法が實施せらるゝ其の最初に於てこの被保

險者の總數二百萬人と考へて居る。

健康保險法による保險者は保險組合を骨子となし是れのない所では政府が直接任に當ることになつて居る。其組合は資本家と勞働者との協同に基き、政府は勞働者五百人以上を有するものには組合を作る事を命じ、また資本家の希望によつては三百人以上の勞働者を持つものに許可する場合がある事となつて居る。別に各府縣に保健署を一ツ宛設置する意嚮である。猶ほ新法實施に伴ふ醫療給付は、原則として保險者が爲すこととし、詳細の事は未定であるが大體外國の例に倣ひ、請負制度、自由選擇制度とする考へである。次は分娩の場合であるが、これには被保險者に二十圓の金額を支給し、そして自由に醫師若しくは産婆にかゝらせる事にする。直接金を手渡しするは詐病の虞がないからである。

保險法による總ての費用の負擔は、事業主と勞働者が半々に分擔することに規定してあるが、勞働者の負擔過重を懼れ、收入の百分の三の支出と限定しそれで不足の場合は資本家で引受ける義務のある事とした。その外に國庫より補助を給與する。尚各種の爭議の起つた場合は一審二審三審まで行き得るところの審判所を設立する筈である。

社會的思想と社會的良心

內務省警保局長　後藤文夫

あらゆる方面から考察して現代の日本は一つの過渡的苦惱に呻吟してゐると云ふことが出來る。就中現代社會の思想的主流とも云ふべきものが因習の打破、傳統の解放と云ふ樣なことに要約することが出來る。從つて此點に關しての社會的苦惱は又格別に大きいものがある。それら社會の思想的主流に棹さす人々は叫んで云ふ、從來の倫理、道德、宗敎、規則、その他あらゆる習慣、風俗、制度に至るまでも凡て今日に於てはその當時の人間に依つて作られた本來の意志に反して人間の個人的及び社會的生活の

進步發達に役立たなくなつた。のみならず、過去の遺物たるそれらは生命のない化石となつて、徒らに自由なるべき人間の頭上に重くのしかゝつて、眞の人間的生活を拘束してしまつた。この儘にして置いては、人間はその重壓の下にあつて徒らにその呻吟をつゞけるばかりで、眞に生き甲斐のある生命を保持することは出來ない、個性の發達も創造的要求も滿されない。自由と平和は之がために半ば奪はれて居る。まして社會的に共存の實を揚げると云ふ樣なことは以ての外である。人間はこの拘束から脱け出し、重壓に反抗し、暗迷の世界から光明の世界へ飛び上らなければならない。さうするためには先づ以て化石化した過去の遺物たる倫理、道德、宗教、規範その他あらゆる風俗習慣を打破し否定し、そして新に現代人に依つて現代人の適當と見做し且つ必要とするそれらのものを創造しなければならない。過去は凡て惡夢である。因習や傳統は人間のための死刑臺である。凡ては生活のために不必要であるばかりでなく、倒さなければならない勁敵である。と斯う主張するのである。この主張こそ實に現代社會の思想的主流と云ふべきものである。

この社會的主流思想がいろ／＼な意味で一般の年若き青年間に浸潤して青年の思想を動搖し或ひは思想的混沌の狀態に陷れつゝあることは爭はれない事實である。この因習打破、傳統解放の思想は直截的に青年をしてその依つて立つべき道德的基準を失はしめんとする。かゝる不安定な位置にあるところへその弱點に附け込んで侵入せんとするものは人間共通の動物性である。私はこゝで必ずしも因習打破の思想を否定せんとするものでないがそれと同時に全部的にそれを肯定するわけにもゆかない。元來因習打破と云ひ傳統解放と云ふもその思想傾向を全部的に拒否し若くは蛇蝎視すべきものではない。そのどこかに價値を見出して現代社會に必要なるべき部分はそれを生かして行かなければならない。それと同時に因習であるから傳統であるからと云つても全部的にこれを否定してしまふと云ふも甚だ穩當でないたゞ因習や傳統が人間の個人的並びに社會的生活上眞の生命活動を阻害し道德を傷けてゐる結果、どうしてもそれを取除くべき社會的又は國家的必要に迫られた場合に限り、始めてそれを打破すべきであるが永い過去の歷史を持つてゐる因習や傳統の中には

どうしても吾々現代人の手にだに觸れるを許さないほどに立派に完成したものがある。

斯かるものに對しては、吾々はそれを否定し破壞せんとするよりも、その內部に潜むところの汲めども盡きない泉の底深く沈湎してゐるものに眼を注ぎそこに舊くして尙新しい生命に觸れなければならない。そこでは分析し批判するよりも禮拜し信仰することが大切である。歷史と過去と傳統は現在の母である。それを離れて現在は存しない。獨り靜かに自分を顧みる者は誰でも傳統の力が如何に强く自分の生命の中に脈動するかを知ることが出來るであらうこゝに於てか、吾人は過去の遺物として一部の人々から見做されるそれらのものに對しても、愼重に取捨選擇の必要あることを思ふ。この選擇を誤るは旣に根本的の誤謬に陷つてゐるものと云はなければならない。道德と云ふものが時代、場所、社會的環境の相違に支配されて常に推移し變動してゐると云ふは一應尤なことである。江戶時代の道德と明治時代の道德と大正の今日の道德とをそれ〳〵比較して見てもそこに漸次的推移の跡を明かに認めることが出來る。又歐洲と東洋とを比較してもその點は同一であつて絕えず推移異動するのである。

然しながら道德が社會的環境や時代の進展に從つて變化すると云ふのは、寧ろその形式的方面であつて、これも確かに道德の一部分とは云へるであらうが、一方に於て形式的に推移變動極まりなき道德の表面のあると同時に、他方に於て時代と場所と社會的環境の影響支配から超越的に獨立して儼然と立つてゐるところのヨリ深き本能的の道德性のあることも認めないわけには往かない。人間が如何にこの超然獨立的なる眞の道德性をヨリよく生かしてゆくかと云ふところに人間としての眞の價値があるのだと云ふことが出來る。且つ又それであつてこそ道德と云ふものゝ價値も確實になつて來るわけである。この道德性の燈す火は永遠に滅することなくして個人を指導し社會を統轄するものである。

この道德性を換言すれば自己に對する良心と云ふことが出來る。如何に社會環境が變化するもこの自己に對する良心だけは永遠に不變である。人間はつまりこの自己に對する良心道德性によつてのみ自己の生活を向上さし、これを統一し、眞の人間的生活を爲すことが出來るのである。その道德性は卽ち自

己に對する良心である。一體人間の生活が動物のそれと異る所以は意識的に一つの完成せんとする要求を有つてゐるか否かに存するのである。下等動物の如く何等の目的も要求もなく、たゞ單に本能的要求のまゝに盲從するの生活であつたならば、その要求を統制して目的を達するやうに調節する必要はない然し乍ら苟くも人間である以上は、一個の確乎たる目的を追うて生活してゐるものであるから、人間の動物的本能の要求を成るが儘に放任して置くと云ふことは、人間の生活を益々動物的に近づかしめるものであつて、それは畢竟するに人間の墮落である。而もかゝる狀態を人間の墮落であると自覺せずにゐる人々は既に人間の生活を脫して動物生活の中に居るものと云はなければならないのである。

この統制を失し規範を無視した生活は、自己の良心を裏切りそれに反逆するものとして、道德上批難さるべきは勿論、その必然的結果として、個人の滅亡となり、又社會的には社會的壞滅の徵候と見なければならない。人々がただ望みのままに喰ひ且つ飲む時は其結果は如何であらうか、喰ふにも飲むにもその動物的本能の欲望のままに任して、そこに何等の統制をも設けなかつたならば、人間は間もなく滅亡してしまふは明かである。如何なる場合に於ても人間は人間の生活を統制すべき規範に從つて生活しなければならない。その規範に從つて云爲し行動し以て生活すると云ふことは、一見極めて不自由の如く見ゐるのであるけれども、そこにこそ人間としての心からの自由があり、そして其處にただ一つの自己を生かす道が存してゐるのである。

この簡單な例證の含む眞理はその儘これを吾々の社會生活、道德生活に適用して再び眞理である。人間は個人生活に於ても社會生活に於ても如何なる場合たるを問はず一つの規範に依つて生活して行かなければならないものである。而かもその規範たるや壓制的に課せられて止むを得ず從ふと云ふのではなく、各自自分の內心に靜かに耳を傾ける事であつて斯くする時は常にそこに自分に呼びかける一つの道德的規範のあることを知るであらう。その內心の聲こそ吾々が如何なる時代、如何なる場所、如何なる社會的環境にあつても、吾々に常に變らない道德性を與へ歩むべき道を指示してくれるものである。この內心の聲に對して常に銳い注意を支持してゆくこ

と、即ち自己に對する良心を益々練磨すること、唯それに依つてのみ吾々は統一づけられて行く道を誤りなく進むことが出來るのである。

人の個人生活を理想化せんがためには、これを統制すべき自己に對する良心の必要なると同じく、個人の集團たる社會生活を理想化せんがためにも、亦そこにこれを統制すべき良心が必要である。社會人はこの社會的良心即ち社會的規範に從つてその生活を律してゆかなければならぬ。かくて初めて理想的社會生活を續けることが出來るのである。その社會的規範の根抵となるべきものも亦各個人の自己に對する良心から生れたものである。若し人間がこの自己に對する良心を捨てて動物的本能の欲望のままに無統制の生活をなすことになればその國民はギリシヤ、エジプト及びその他の民族の如き滅亡の悲慘に遇はなければならない。要するに人間は動物的本能の欲求を調停し、これに統制を與へて、精神的要求を高潮し、そこに生活の理想を樹立することに於て初めて眞に人間らしい生活を行ふことが出來るのである。この人間內心の聲としての良心に對して靜かに耳を傾けることが道德上大切な點である。靑年が時代思想の影響を受けるのはそこに成程と一應首肯すべき點もあれど併しながら此の自己に對する良心を忘れると云ふことは一大痛事である。

奉天に於ける日支人勞働者

在奉天　田原漠東

奉天は元來が商業都市である、從つて工業都市の樣に勞働階級に屬する者は至つて少く、然かも其の少數なる勞働階級の殆んど九パーセント迄は支那人で、邦人の純勞働者は極めて少數である。此の少數なる邦人勞働者と支那勞働者とを對照物として勞働問題を云爲するは極めて無價値なことの樣であるが滿洲に於ける勞働問題の一斑を窺ふ栞として玆にその概要について述べて見やうと思ふ。

前言した樣な情態で奉天に於ける勞働階級者は大部分支那人である。此れは獨り奉天のみの狀態でなく、滿洲を通じて皆同樣であるが、就中奉天の邦人勞働者は他の地方に比較して最も少數で、此の少數なる邦人勞働者が部分的業務に從事して居る關係上勞働者間相互の融合親睦を缺ぎ、隨つて團結力に乏しく、部分的には小團體を爲して居るけれども、大同團結したものはない。目下の奉天に於て勞働者の此等小團體中で幾らか內容價値と夫れから權威を有して居るのは奉天聖德會で、本會は皆川秀孝氏を會長とし、土木建築現業者を中心として約四百餘名の會員を擁して居る。此外に奉天洋服職工組合、奉天理髮業組合等あるも、有名無實で、滿蒙毛織を初め南滿製糖、滿洲製麻等の從業員は殆んど孤立的である。一方支那人間にも一二組合は組織されて居るが前者と同樣の狀態で殆ど問題にならない。

大體斯樣な狀態で、奉天には邦人側にも支那人側にも勞働團體と目すべきものなく、隨つて一見極めて無事である。併しそれは勞働者の力が薄弱なる爲であつて、其の無力の結果、彼等は資本家又は事業家に屈從して居るに過ぎないのである。然らば奉天には勞働爭鬪は起らぬかと云ふと、必らずしも然うではなく、奉天にも此の二三年來多少の勞資爭鬪が演出された。奉天オフセット會社從業員が勞働賃金の値上を要求して同盟休業したる如き、滿蒙毛織職工の賃金値上運動の如き、奉天、滿陽、馬鐵從業員の俸給値上運動の如き、卽ちその重なるものである然るに此の解決の結果を見るに、勞働者側の要求にして容れられたるもの殆ど無く、却つて之がために解雇され失職の憂目に遇つたものが多い。

以上は奉天に於ける過去の勞働問題の概要で、邦人を本人としての觀察であるが、支那人側の勞働問題としては特記すべきものがない。唯玆に聊か注目に値するのは山東苦力と直隸苦力の將來に於ける關係である。過去及び現在に於ける奉天の支那苦力は七パーセントまで山東苦力であつて、彼等は歷史的に南滿を活動範圍とし、直隸苦力を壓迫するの勢力を有して居るが、近年の傾向として直隸苦力に漸次勢力を侵害されつゝある。實際の勞働能力は山東苦力に比し直隸苦力の方が優つて居るが、其の反面には仕事が粗雜で、仕事が粗暴である事は一面思想的に危險性を帶びて居ることが想像される。

調査記事

滿洲に於ける日本赤十字事業

其の一般成績と新計畫事業

滿洲に日本赤十字社が進出し來たのは日露戰役當時で、卽ち同社の救護事業開始を發端とし、戰後引續き當時の業務を經營し、以て現時に及べるのである。其の明治三十八年當初の滿洲進出から算ゐると旣に十八箇年を經過したが、滿洲委員部本部は今日之を旅順に置き、各地には支部を設け、旅順本部の命令指揮下に支部を統括して居る。試みに大正十一年末現在における滿洲支部を示すと

旅順支部（所管區域旅順民政署管內）
大連支部（同大連民政署管內）
金州支部（同金州、普蘭店、貔子窩）
營口支部（同營口、大石橋、瓦房店、蓋平、海城、復州及び錦州）
遼陽支部（同遼陽、煙臺、劉二堡、立山、鞍山千山）
奉天支部（所管區域奉天、撫順、本溪湖、新民府、鄭家屯、及び通化）
鐵嶺支部（同鐵嶺、開原、海龍、大疙疸、掏鹿、昌圖、及び法庫門）
長春支部（同長春、公主嶺、四平街、伊通州、農安、及び郭家店）
安東支部（同安東縣、鳳凰城、鷄冠山、通遠堡、並びに大孤山）
吉林支部（同吉林、局子街、龍井村、渾春）
ハルビン支部（同哈爾賓、傅家甸、双城堡並びに東支鐵道沿線）
齊々哈爾支部（同齊々哈爾領事館內）
鄭家屯支部（この支部は新たに大正十二年度より開始したものである）

卽ち日本赤十字社は今や關東州內と滿鐵沿線主要地に支部を設置し、延いて北滿に及び、其の業務を

擴大して居るのである。尙ほ青島及び芝罘方面の業務は便宜大連支部管内に附屬せしめて居る。次に此等各支部が現在において幾許の社員數を有するかといふと夫れは次の通りである。

各支部の社員數（大正十一年末現在）

旅順支部　邦人二、六八四　外國人三、八七一　計六、五五五人
大連支部　邦人六、五四七　外國人四、五〇七　計一一、〇五四人
金州支部　邦人五八四　外國人六、九七八　計七、五六二人
營口支部　邦人二、八六三　外國人二、五三〇　計五、三九三人
遼陽支部　邦人一、一七三　外國人七四〇　計一、九一三人
奉天支部　邦人六、三〇一　外國人二、四〇八　計八、七〇九人
鐵嶺支部　邦人一、六三〇　外國人一、四八五　計三、一一五人
長春支部　邦人二、九四七　外國人二、四八七　計五、四三四人
安東支部　邦人一、九一二　外國人二、六五八　計四、五七〇人
吉林支部　邦人五一七　外國人五八一　その合計一、〇九八人
ハルピン支部　邦人一、三二五　外國人一、二〇四　計二、五二九人
齊々哈爾支部　邦人三六七　外國人八一　その合計四四八人
此外不定に屬する分　邦人二、一七一　外國人三一　計二、二〇二人

更に此等の社員を合計しての邦人と外國人との區分は、滿洲の總社員數は六萬五百八十二人で、其内邦人三萬千二十一人、外國人二萬九千五百六十一人である。邦人は兎に角、玆に特記すべきは外國人社員中に支那人社員が大部分を占めて居る事で、卽ち二萬九千五百六十一人の外國人中支那人は實に二萬八千二百九十人を算して居る。支那人に次いで多いのは露國人であつて其數一千四十人を算し、それから米國人が百二名、英國人が六十七人、佛國人が十三人、其他の外國人が四十九名である。

次に明治三十八年以降今日に及ぶ迄の社員の每年入社數は幾許であつたかと云ふと夫れは次の通りである。是れは一面に於て滿洲に於ける日本赤十字事業發達の徑路を示すべき羅針盤とも言ふべきものであるから注意して見るべきものだ。

歴年別入社員數

明治三十八年四、二七九人	同三十九年四、六九一人
同　四　十年一、六七三	同四十一年七、七三八
同　四十二年二、二三九	同四十三年三、五五六
同　四十四年三、二三二	大正元　年三、三五〇
同　二　年二、一四八	同　三　年三、三九三
同　四　年三、五八七	同　五　年一、六八四
同　六　年一、八七七	同　七　年三、七三五
同　八　年四、五一八	同　九　年三、七八〇
同　十　年五、六五五	同　十一年七、五三九
合計　六八、六七四人	

赤十字社の事業は言ふ迄もなく博愛仁慈の主旨を其根幹となし以て救護施療の大使命を遂行するに在る。滿洲に在りては、在住邦人が日常支那人に接觸交渉するため、日本內地と自ら事情を異にし、其の救療事業の經營も隨つて特殊の意義を有するものと認めねばならぬ。卽ち內地の如き單調のものでなく日支人兩者に亙りて複雜多岐である。

然らば滿洲に於ける日本赤十字社は今日迄に如何なる事業を遂行したであらう乎といふと、是れは何人も知るを要する事であるが、今日迄のところ主として救療事業を遂行したのである。卽ち第一は病院の經營、第二は救療所の經營、第三は災害救護、第四は篤志看護婦人會の設置、第五は巡回施療の實行

等である。次に最近計畫立案され近く其の實行を見るに至るべしと信ぜられて居る事業は第一が大連赤十字産院の設立、第二が赤十字少年團の組織等である。以下此等事業の概要を摘錄する。

（一）奉天病院　奉天病院は滿洲に於て日本赤十字社の經營せる唯一の病院である。此の奉天病院は明治四十二年十一月一日を以て奉天大西關に設置され現在は院長、副院長各一名、醫長三名、醫員三名調劑員一名、事務長一名、其他を合せて五十三名の職員及び使用者を有して居る。大正十一年に於ける病院經營費支出總額は約十三萬圓である。今大正十一年に於ける同病院の成績を見るに

普通患者取扱數　（入院者）日本人實人員五一六人　同延人員五、〇九四人　外國人實人員一九二人、同延人員三、二三八人　（外來者）日本人實人員三、二五三八人、同延人員二〇、七一三人　外國人實人員二、四七一人、延人員一五、二六六人

救療患者取扱數　（入院者）日本人實人員五四人、同延人員一、七五〇人　外國人實人員五三人、同延人員一、六七四人　日本人(外來者)日本人實人員一七五人、同延人員一、〇一四人　外國人實人員四、一五六人、延人員三〇、二〇五人

この外において猶は特に結核患者を收容して居るが十一年中における其の人員は入院と外來患者とを合せて約百七十名といふ數である。

(二)救療所　救療所は病院に似て而も簡單なるものであるが、大正十一年に於ける其の所在地は錦州新民府、安東、通化、掏鹿、海龍、法庫門、吉林、張家溝、双城堡、齊々哈爾、赤峰、芝罘等で、此等救療所の大正十一年に於ける取扱患者數は普通患者七四、〇七六人、救療患者一一、四四五人、合計八五五二一人である。茲に特記せねばならぬのは、此等救療所に於ける患者の殆ど全部が支那人に屬して居ることで、之を以て看るも、日本赤十字救療事業が支那人のために如何に能く勗め又如何に能く其の使命を果して居るかを知ることが出來る。

(三)災害救護　災害救護は運動會に於て水泳浴場に於て又は地方突發事件に依て生ぜる災害を救護するを目的として居る。大正十一年に旅順、大連、長春、奉天、安東、吉林等の各地にて救護したもの實人員三百八十三人、延人員六百五十三人を算し、その救護員百十六名を要した。殊に十一年中に奉直戰に依る奉天軍負傷者及び病者の救護を奉天に行ったことは特記すべきもので、其の救護實人員八百五名延人員二萬五千四百十八人に達した。

(四)特志看護婦人會　特志看護婦人會が赤十字支部内に設けられたのは明治四十二年の旅順支會を最初とし、次いで同四十三年に長春分會、大正二年に鐵嶺分會と安東分會が設けられ、昨十一年九月に奉天分會が設立されたが、其他の支部内には未だ設立されない。夙に設立されねばならぬ筈の大連支部内に未だ特殊看護婦人會の設けなきは、支部の怠慢なるに依るか、婦人の本事業に對する理解力の進まぬため乎、理解力を有するも冷淡無關心の致す處か兎に角遺憾に堪へない次第である。大正十一年末の篤志看護婦人會々員數は旅順分會の百八十一名を最多として總計四百二十三名を算する。

(五)巡回施療　巡回施療は巡回施療班を組織し春秋兩期に其の支部管内地方に行ふのであるが、當施療は主として支那人を對手とし、會屯等の村落において醫療の途なくまた之れ有るも藥餌費を支辨し得ないので病床に呻吟し居る窮苦の支那人に對して行ふのである。されば全支部に於て實行されて居るのではなく、今のところ一部支部の事業に過ぎないが

追つては各支部に普及せしむる由である。

旅順支部は大正二年以來引續き之を施行し相當成績を擧げて居る。大連支部は昨年秋期に於て始めて之を開始し、本年春期の巡回施療は四月五日より三週間の日子を費し、支部管内を一巡して施療に從事し、重患にして入院を要するものは入院せしめ、非常の好成績を收めたといふが、其の巡回施療を受けた患者は支那人男女一千二百名に上り、之を延人員とすると實に九千人の多きに及んだ。最も簡易で而も其の效果の著しいものは蓋し支那人に對する此の巡回施療であらう。赤十字事業の眼目たる博愛仁慈を以て支那人に德化を布くもの恐らく此の簡易なる巡回施療に若くものはあるまいと思ふ。

以上は滿洲における日本赤十字社事業の大要である。この外猶は大連支部における將來の事業として大連産院の設立と赤十字少年團組織の二事業がある此の二ッの新計畫事業に關し大連支部の主事門井寛一氏は記者に次の如く語つた。（大城）

滿洲特に大連に於て乳兒若くは幼兒の死亡が非常の多數に上り日本人側でも支那人側でも全死亡者の殆ど半數乃至半數以上が此等乳兒又は幼兒の死亡者であるは毎月の統計が最も明確に證明して居る是は風土氣候等の關係にも依るが中流以下のためにする産院の設けなく胎兒及び姙婦の保護完備せず之れに加ふるに出生後の虛弱等にて幼兒乳兒の死亡率を高むるものと認められる。

赤十字大連支部は此の恐怖すべき事實に鑑み産院設立の一日も緩ふすべきに非ざるを感知したので産院設立の具體案を作成し之を旅順本部に提出し其の承認を得たから本年度内に其の設立に着手する筈である然し本件については更らに東京の赤十字社本部の承認を得ねばならぬので旅順本部の我澤主事は本社總會に出席の序を以て此の産院建設案を携帶し本社の承認を求むる筈になつて居る勿論本社の承認を得ることゝ信ずる。

內地に於ける赤十字産院は施療を主として經營して居るが滿洲は內地と事情が異なるから大連産院は施療を從とし實費診療を主とする筈である是れも規定上本社の承認を求めねばならぬ點である猶ほ産院設立に就ては建造物其他設備費に約五萬圓の金を要するも是れは旅順委員本部より支出すべく交渉して其の諒解を得て居るから今は唯だ東京本社の承認を得ば足りる譯である。

前に述べた如く大連産院が設立された上は實費診療を主とするのであるが其の診療費は滿鐵醫院其他に比し約三分一位にて濟むのであるから産院設立の上は幼兒死亡率の増加を防止し得ることゝ信

する其の收容人員も相當施設の下に比較的多數の産婦を收容し得る計畫になつて居る。

次に滿洲赤十字事業として研究もし又計畫も進めて居るのは赤十字少年團の組織である此の少年團は已に内地に於ては各所に設置され相當成績を擧げて居るのみならず此の少年團組織の爲め小學校敎員の救療事業に關する講習會をも開始して居る赤十字少年團組織の主旨は言ふ迄もなく少年の衛生保健思想と社會心を涵養し同時に其の實行に當らしむるもので彼の病患者應急手當其他に對する智識を與へ並に博愛仁愛の精神を養成するもので今度大連支部にて組織せんとする少年團は尋常小學校五年生以上の男女生徒全部を網羅する筈で關東廳學務當局者の諒解を得た上は各小學校當事者と協定して實現したいのである云々。

財團法人華工保護會設立計畫

既に關東廳に向つて其の願書を提出した

體力が強く、賃銀が安く、そして能く働く支那人勞働者たる苦力は、滿洲の事業界には無くてならぬ一ッの要素となつて居る。隨つて苦力の保護善導をなす社會事業の必要なことも明瞭な譯であるが、大連には相生由太郎氏の獨力經營にかゝる寺兒溝の苦力收容所がある計りで、其他には社會事業と稱すべき程の苦力に對する施設がない。

我が滿洲社會事業研究會は苦力問題についても常に研究を怠らず、勞働問題の一ッとして、之が保護善導手段に關しても種々に調査して居る。其の研究調査の結果として、大工、石工、左官、煉瓦工、鍛冶工、製油工、木挽等の特殊技能を有する支那人職工の保護善導機關として『支那人職工共同宿泊所』を設くるの必要を認め、其の目論見書を作製して五月十四日開催せる正副會長、相談役及び評議員等の集まれる相談會に提案したが、市役所に於て同種の計畫があると云ふことであつたので、竟にその審議を保留する事になつた。然るに今回邊見勇彦、小澤

太兵衛、三村林平、穐田鹿造、立川雲平、山本訥六諸氏の名で關東廳に財團人法滿洲華工保護會の設立出願をなすに至つた。贊成者も十八名ばかり列記されてある。此の華工保護會は寄附行爲を以てその經費を作成し、華工(苦力)並に之に準ずべき者を保護すと云ふのであつて、趣意書には

現時生産工業上に於て文明的機械力も尚ほ及ばずと歐米人をして賞讃措かざらしむる滿洲苦力は其の勞働能力絶大にして理想的の勞働者たるは玆に多言を要する迄もない滿洲實業界の世界的發展を遂げた所以のもの一面彼等勞働の賜に歸すといふも過言ではない然れども彼等の日常生活は無智朦昧加ふるに先天的惡習慣に依る不潔非衛生に且非文化的で吾人文化生活者の良俗を破壞し延いて生命財産上に迫害脅威を感ぜしむる事が洵に少なくない今後若しも彼等をして其の爲すが儘なる生活に委し敢て顧みざる時は其の弊の及ぶところ實に大なるは世人の均しく感知する處である現今寺兒溝に於て相生由太郎氏が經營二十年に達する二萬有餘を收容し得る苦力收容所ありと雖も市街の發展と共に其の位置一局部に偏するの外主として埠頭作業を目的とする收容所なるを以て其の收容は以て全般の苦力に及ばない感がある。

尚大連市街各所に散在する苦力の數は日々五千名を超ゆるの狀態にある彼等は眼に一丁字なく非文化的勞働者の一群であるため其の來往並に雇傭に關し往々にして惡周旋者の爲めに致され意外の損害を被むる場合も少なくない是れ彼等の爲めに悲むべく又同情すべき事であつて此くの如きは其の收容保護の機關と施設とに缺くるが故に然るのである華工保護會は此等憐むべき苦力に對し居住の安定と勞働の便宜とを與へ且適當慰藉の途を講して之が保護收容に努め勞力供給の圓滑と風致並に治安維持との爲め稗益する所あるべきを期し玆に財團法人組織とする所以である。

爲仁會の四月成績

免囚の罪質と其の犯罪度數

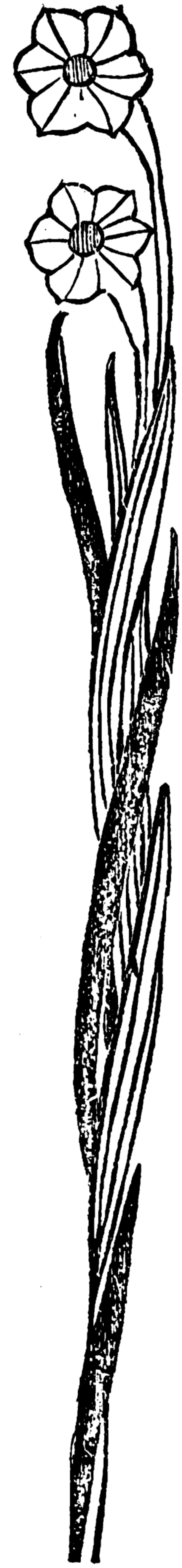
大連市外沙河口聚德街チ區四九財團法人爲仁會は創置日尚ほ淺いが着々實績を擧げてゐる。四月中に保護收容した免囚は十二名で、内會内において就業したもの四名、内地へ歸つたもの五名、一時宿泊したもの三名であつて、前月からの繰越人員を合算すると二十三名になる。次に之等免囚者の罪質別を見るに、詐欺と竊盜が五名宛、横領が六名、文書僞造が一名、强盜殺人が三名で、その犯罪度數は初犯者

が一番多くて十四名、二犯が四名、三犯及び四犯が一名宛であるが、三四犯のものとなると容易に改悛しない。併しながら內地には十數犯も犯した者があるが滿洲には左うまで慢性的のものはない。これは土地の狹いのと一般の生活が本國より幾らか餘裕力に富んで居るためであらう。猶ほ免囚者が從事してゐる現在の職業は苦力監督が一番多くて五名、其他は馬車の監督を始め洗濯夫、大工、縫工、店員、雜役、鐵工、掃除監督等である。一寸變つたのは講談師が一名ゐることである。爲仁會にては財力の充實と共に一層實績を擧げるとの事である。

匿名組合赤陽社

其の計畫大要と事業の內容

藝術的趣味性の向上及び實生活改善の誘導に資すべき所謂民衆文化を基調として立たうといふ匿名組合赤陽社は元滿鐵社員であつた西孟利氏に依つて計畫されてゐる。組合の組織は一口十圓五千口を限度として第一期は三萬圓(卽ち三千口)を以つて事業を開始する筈で、その事業は俱樂部、出版部、商業部の三部に分け、總べて目的に適した展覽會、講演會音樂會、試演劇等を開き、別に機關雜誌として社會思想、藝術、政治、經濟及び娛樂等を具備した雜誌を發行し、一面財源を作る爲め美術工藝品其他文化生活に資すべき器具類の販賣を兼營しやうといふ大分複雜した仕組みである。併し計畫者西氏の言明によれば、此の匿名組合赤陽社の眞の事業は特色ある(コーペレーション)を組織して經濟上に立脚し需給兩者の間に在りて相互の利用機關たる働きをなすに在るとの事である。猶追つては一個のデパートメントを建て日支提携の社交グラブとし、同時に日支產物の紹介及び卽賣をなし、成るべく廣く社會的民衆的に活動する目的であるといふ。此の計畫に着手したのは昨年の十月下旬で、本年三月上旬に發起人會を開き、四月に入りて趣意、事業目論見、收支豫算規約等を定め、五月に亙り各方面を歷訪して諒解と贊助を求め、四月には旣に百餘名の贊助員が出來たとの事である。其の理想とするところ至極結構であるが、それ丈け眞面目に熱心に其衝に當り、事業開始の上は專ら誠意と正心を發揮して其の旨趣目的通りに實行すべきことと勿論であらう。



現代生活と主婦の自覺

鳩山春子

現在の婦人に比べると昔の婦人の方が多く壓迫され盲從を强ひられ奴隷的生涯に甘んじなければならない運命にあつた樣である。今日でも一般の中流社會の主婦達は用事が多く荷が重過ぎて疲れ切つて居ると言ふ樣な事が言はれて居るのであるが、私の考では、今日では主婦自身の理解や自覺さへ確つかりして居れば、主婦たり母たるの權利を自負して差支なく、その點は社會一般でも認めてゐるのであるから、遣方次第では何うにでもなる問題の樣に思はれる。要するに婦人各自が世間社會の承認するところの主婦たり母たるの權利に對し自覺した上で繁多な用事を出來るだけ簡單に處理する工夫をすれば可いのである。

元來現在の中流社會の主婦達に用事が多くて荷が勝ち過ぎるなどと云ふのは、全く自分の生活をしようとする爲めから來るのであつて、身分相應に寧ろそれよりも控目に內輪な生活に甘じて居るといふ覺悟さへあれば、さう問題にしなければならない程忙しくて荷が重過ぎるなどと云ふことは無い筈である。自分達の身分と收入とを考へ、それに相應した生活程度や社交程度で甘んずべきである。身分と收入によつては、家庭の必要上女中を使ふのも可いであらうが家庭の人々が互に家庭內の仕事を分擔し、それ〴〵自分の受持の仕事を責任的にやつて行く樣にすれ

ば、仕事の能率の上から云つても必らずその二倍以上の結果を齎らすことが出來るのである。

それから生活を簡易にするためには、無意味な交際や習慣は一切捨ててしまつて、出來るだけ必要以外に這入らない樣にするのみならず、食事にしても三度の食事の中一度位はパンで濟ましても可い筈である。又着物にしても、平常着に他所行が一通りもあれば充分用は足りるのであるから、買ふとき少しばかり値段が增しても、長持のする實用のものを買ふ樣に心懸けることが必要である。夜會に出なければ夜會服の必要は無いし繁忙な仕事がなければ自動車の必要も無いのである。それにも拘はらず、つまらない虛榮心から分不相應の生活に憧憬したり、不相應の社交に飛出したくなつたりしてそれがために來る冗費が知らず識らず莫大になつて來るのは、要するに身の程知らずである。何でもさうであるが上を見れば限りが無いものである。少しでも分外の眞似をすると、その次には又その上の慾が出る、その結果は限りがないものになるのである。殊に近頃では社會も政府と貧乏人に同情する傾向が著しくなつて、少しの租税を納めるものにも選擧權を與へるし、收入の少い人からは所得稅を免除するといふ風になつて來て居るのであるから、全く貧しい者の天下となりつつある。故に相當身分が低く收入が少くても、その身分に應じ收入に適當した生活に甘んじて收入を超さない樣にしてさへ行けば、どの家庭でも立派に簡易に而かも氣持好く生活して行くことが出來るのである。

主婦の重荷であると考へられてゐる育兒にしても主婦の心懸け一つで左程重荷にはならないのである。日本の家庭では主婦が度を超して小兒を可愛がり世話を燒く嫌ひがあり、餘り可愛がり過ぎ世話を燒き過ぎる結果小兒に我儘な惡い癖が附く樣になるのである。育兒は非常に難かしいことであつて一概に云ひ盡すことは出來ないが適度の放任主義は必要であると思はれる。尤も西洋では家庭の設備器具の位置などが小兒を育てるに適當に出來てゐるが、それに反し日本では一時も眼を離すと危ないといふ樣に家庭の設備、居間の有樣、器具などが育兒法にとつて甚だ不便であり危險であるところから、自然四六時中小兒に附き添うて何かと世話を燒いてゐなければならないといふ結果になるのであ

る。でこの點では家庭の設備を注意して成るべく小兒の手の屆く樣な場所へは物を置かないと云ふやうにしなければならない。

ここに育兒法の實際として一つの面白い例をいへば、日本では未だ殆ど見受られないやうであるが西洋の主婦は前掛に紐を附けて小兒を縛いてゐるのであるから、仕事をして居やうと、甲板の上であらうと、また子供が泣き喚めいても安心して居られるのである。西洋で良く一人前になつたことをエプロンストリングが除れたと云ふが之れは此事から來て居るのである。要するに主婦に家庭内の荷が重過ぎると云ふのは、主婦自身の責任であつて、主婦自身に自覺さへすれば、心懸次第で何樣にも家庭の仕事を輕減することが出來るのである。そこで何より大切なのは、主婦自身の心懸けの如何と云ふことになるのである。

眞劍味のない職業婦人

東京中央職業紹介所　末廣靜枝

これ程世間で職業婦人問題が騷がれてゐる割合に、實際に職を求むる婦人は眞劍でなく、婦人を求むる雇手は全くこれに理解がないので、私は全く泣き度くなります成程職業婦人問題は近來流行物のやうに到る所で研究されて參りました。實際に於ても日に日に增加してゐます。然し私共の眼から見ますと、十中の八九までは一時的のもので、眞に自覺した獨立の出來る人はほんの一部分に過ぎません。これは雇手が婦人に生涯獨立するだけの待遇を與ねないからかそれとも職業婦人が社會から認められるだけの能力を持つてゐないからであるか。私は世間が婦人に獨立する丈の待遇を與ねないから自然一時的になり、一時的だと考へてゐるから、肝腎の天分も才能も發揮する機會がないと云ふ見方からして、切に雇手の方々の顧慮をお願ひします。隨つて此の紹介所に來る求職婦人は殆ど厭になるほど眞劍味が有りません。

男子の求職者の態度に比較してこの呑氣な理由が何處にありますかと云ふに、男子方は何れも一家を養ふといふ所に眞劍さが生まるるが、女子には物質的にこの責任

が無いため、遊んで居るよりはとか、嫁入仕度の幾分でも作りたいとか、何れも言ふ事が不得要領で「この人がまア女學校の卒業生か」と怪しまるゝ者が尠くありません十人が十人、職業に對する自分の希望とか趣味とか適業とか云ふものは微塵も考へず、何でも月給の一番多い所を望むのが求職婦人の共通氣質です。隨つてこの婦人達は採用されても機械的に月給のために働いてゐるに過ぎません。これは本人が惡いのか、眞劍になるやうな位置に置かない社會が惡いのか、この邊に今後の職業婦人問題の改善があると思ひます。

今日婦人を使用する諸官署諸會社では顔形の良い惡いと云ふことを採用條件の第一位にして居りますが、これも惡い風習です。これでは實際において何とも手のつけ様がありません。顔のいゝのと惡いのとでは就職する場合に世話をする私達の骨折までに關係して來ます。かう云ふ間にはさまつて職業紹介をしなければならぬとは何と云ふ情ない事でせうか。現在の職業婦人の實狀を知つてゐる側から云へば名のみに過ぎません。これらの職業婦人問題はどちらからも其の考へ方と態度を變へるやうに導かれなければ數ばかり殖ゑても幸福にはなれません。

現代女子の結婚年齢

二十歳後が適當だとの説

紐育の判事仲間に起つた「これから婦人の結婚年齢は二十歳後といふ風に改むべきだ」と云ふ提唱が海を渡つて佛蘭西の婦人界に於て議論を沸騰せしめたと云ふ通信があつた。その議論によると最も適當なる女子の結婚年齢は何歳であるかと云ふことが問題になつてゐる。多くの議論は勿論區々なものだが、それでも全體の傾向から云ふと、この紐育の判事仲間の提唱に賛成する者が多いと云ふ。「早婚はいろいろな危險性を帶びてゐる、家庭生活の困難や不幸の中にはこの早婚に種を播かれたものが決して尠くない」。これが大體における賛成論の思想である。

特にこの氣持を知るために佛蘭西の女權擴張論者で著述家であるコレエッティ、イバー夫人の賛成

論を聽いて見ると、單に身體の發育から見た生理的の統計からしても、僅か十八歳位で結婚するのは實に悲慘である。況んや人間の幸福は單純に生理上からのみ考へられず心の問題が大事なことだから一層早婚は考へものだ。殊に家庭の幸福は家庭の內外を主婦がどの程度に作り導く能力があるか何うかと云ふことにかかはる。若い女は何れも青春の美しい夢を抱き勝ちで、一度家庭や社會の困難に遭ふて其の夢のやうな幻影が壞されると、一時失望落膽するけれども廿五歳前後になると、すべて人間として主婦として妻として充分の用意が出來上る。これが昔だと「そんな年寄つた女と結婚出來るか」と男が言ふかも知れぬが、今は時勢が變つたから其の心配は無用だ今日では最も結婚に適當な年齡は二十五歳より三十歳である。今日の二十五歳乃至三十歳の女子は昔のやうに年寄染みた所は少しも無い、若くて元氣がよい」と。

前藏相フランコイフ、マーサル夫人もまた此贊成論者として「女子が二十歳前に結婚するとすれば結婚後一番大切な夫を撰擇するため本當にしつかりした判斷力がないから危ない、早婚は危險であり本當の幸福に導かない」と述べてゐる。これに對して反對の氣焔を上げた者も多かつたが、その一つにダウガー侯爵夫人の反對論がある。卽ち「十八歳とか二十歳とか云ふのは問題ではない、要は女子の躾け方だ、訓練だ、敎育だ。十八歳までに人間として立派になれないやうな女子が後もう二三年結婚を延ばしたからと云つて、俄に生れ變るものではない」と反駁してゐる。此の結婚年齡の問題は生活の問題に關係して日本にも既に同じやうな現象が現はれてゐるから他山の石として大いに參考になる事であらうと思はれる。

子供から見た大問題

母乳を與へぬ惡い傾向

羽織の裏か長襦袢と見まがふ樣な派手姿で都大路を往く今日の婦人たちは、何れが娘か人妻か分別のつき樣もない程だが、この裏面には母乳を與へる事を忌む傾向が明らかに現はれてゐる。此內には

ダンスの音樂會のと華やかな社交場裡の人でなく經濟的の壓迫をうけて止むなく職業婦人となるのもあらうが、兎に角之は子供から見れば大問題である。母乳宣傳に就て力を盡して居られる東京の梶谷俊三學士はこの事實に就て「何といつても心身共に健全な子供を得るには母乳に限ります。母乳を禁じなければならぬ特殊の場合は實に僅で、之は專門家と相談して斷行すべき事であるのは申す迄もありません。奥樣が社交とか職業とか參政權運動とかで外に出なくてはならないとはいへ、母乳を與ねないといふ事は、第二の國民を養成する責任ある婦人の立場から考へると、甚だ憂ふべき現象であり、專門家としての私はどこ迄も母乳を宣傳せずには居られないのです」といつて今回左記のやうな母乳宣傳十箇條を公表した。

一、母乳は慈母の血液の變化したものである事

二、其子に必要な化學上の成分を都合よく含んでる事

三、母子の健康を增進する事

四、清潔で新鮮なる事

五、適當なる溫度と適當なる濃度とを保てる事

六、化學的成分のうへに少しも變化を來さない事

七、消化、吸收の容易なる事

八、經濟なる事

九、母子共に快感を得る事

十、產兒制限の一法となる事

以上の如く乳汁は血液の成分たる白血球の變化したもので、慈愛深き良き母の血液はよき血を作るものです。而うして乳汁の含む蛋白、脂肪・乳糖、灰分の各成分がその子に適してゐる事は、卽ち榮養價が高い事であり、母子共に健かになるのは授乳が自然の法則だからである。母の乳房から直接乳兒の口に送られた乳が子供の長ずるに從ひ自然に濃度の加はることや、熱したり消毒の要のない事など申上げる迄もありますまい。牛乳なら三時間かゝる消化が母乳だと僅か二時間位で行はれ、時間と勞力と金錢と三つが經濟になることも分りきつてゐる事です。授乳婦人が斷乳の期が來ても思ひ切つてやれないのは、その快感を忘れがたないのに起因するのが非常に多いもので、母が產後自分の乳を與へない時は次の子が早く出來易いのも一般に多い事實です。兎に角婦人がその子供に母乳を與ねないと云ふ惡い傾向が起つて來たのは子供から見た大問題であつて實に容易ならぬ事ですと。

東巷西街

◆大連聖徳會は日本中の聖徳會の内でも一番優れた團體で其の事業は當に一種の社會事業である◆社團法人となり正副會長、理事及び常議員を置き名譽顧問を戴きそして政府から低利資金二百萬圓を借入れ伏見臺の先の譚家屯方面に聖徳街を設けた◆この聖徳會の低利資金借入れを肝煎したのは現在大連錢鈔取引所信託會社の専務をしてゐる黑崎眞也君が關東廳の殖産課長をして居た時のことだ◆されば聖徳會の機關雜誌『聖徳申報』は五月一日發行第四號に『大連聖徳會の大恩人』と題して黑崎君の談話を掲げて居る◆此の黑崎君の談話の内に『植民地の都市政策は當該官廳として一日も忽緒に附することが出來ない然れば滿洲では先づ大連から計畫を樹てねばならぬと考へた◆さうなると大連市擴大のために郊外に着目せねばならぬが當時郊外の重なる處は老虎灘と周水子と今の聖徳街の土地であつて而かも郊外土地には支那人の小作權を認めて居た◆そして老虎灘でも周水子でも熾んに此の土地の權利を轉賣しそれを當時の大内大連民政署長が默認して居た◆斯る變體的土地賣買を公認すれば單り利權屋の喰物になる許りて市街の發展は期し難い◆そこで特殊の權利を有する會社を老虎灘と周水子とに起させたと同時に今の聖徳街の土地は大連と沙河口との中間で最も樞要な地點であるから其處に住宅を建設したいと考へた』といふ言葉がある◆之れがそも〳〵聖徳會肝煎の發端で當時滿洲の郵便貯金が三百萬圓以上も大藏省に回送されて居たので黑崎君は大連聖徳會へ土地の貸下と共に此の低利資金融通の便まで圖つたのだ◆老虎灘の特殊會社と云ふは古財治八君の郊外土地會社のことで周水子のそれは神成季吉君の周水子土地會社のことだ◆處が社團法人となつて低利資金二百萬圓の融通を得て大々的に聖徳街を建設した大連聖徳會には其後いろんなゴテ〳〵が起つて惡い評判が立つた◆黑崎君は此點につい

ても卒直に有りのまゝに『會員の多くが大工や土方で有るから手前辨當で住宅を建てると思つて居たら聖德會の古顔連が重役となつて居る大連土木建築會社で建てゝ了つたそして忌はしい話題を貽して居るやうだ』と述べてゐる◆實際その通りで世間の評判の中には針小棒大的のものもあらうが土木建築會社に遣らしたのは飛んでもない間違だつた◆その建築會社の重役の多くは聖德會の理事であつたから利益會社と公益團體の双方に跨を掛けて然るべく遣つたのであらう◆多大の期待を以て迎へられた社團法人大連聖德會の社會事業が世の期待を裏切つたそもそもの原因はそこに在ると言はねばならぬ◆蔦井新助君のやうな熱心家があり事務長には宮武如哇君といふ氣骨ある老人が居るから段々良くなることゝは思ふが兎に角惡い歷史を作つた◆聖德會が第一着に斯樣な惡い例を示して吳れたので其後の低資借入れが面倒になつたらしい◆村井大連市長が市營住宅建設に低資を借入れた時は市長の人格と手腕と自治團體の背景で百萬圓出來たがそれが爲め態々東京まで往つて大分骨を折つた◆郵便貯金は元來中產階級以下の零碎な金が大部分を占めて居るのだから當然社會事業に低利融通すべきものだが夫れが兎角妙な方面に向けられるので困る◆そこで大藏省の預金部の金も今度愈々その監督制と使途の道を明かに規定するさうだ◆簡易保險の金は社會事業、公益事業に低利融通すべきものと極つたから此方は安心だが滿洲には九百五十萬圓のうち差當り二十五萬圓位しか融通することが出來ないとの事である◆然るに其の借入れ申込みが既に二三十口の百萬圓內外に達したので遞信局の杉野局長はその取捨撰擇に困つて居る樣だ◆大連聖德會が惡い例を示して吳れたので當局が事業の性質と事業經營の團體及び人物に一層眼を銳くするのは當然であつて文句の言ひ樣はない◆隨分怪しいのも有らうと思ふが元來社會事業はその中心的人物を吟味するのが第一であるから十分念を入るべしだ。

特志看護婦人會

大連は滿洲の首府であるが其の大連に赤十字支部が置いてあるのに赤十字事業の最も主要事業に屬する特志看護婦人會がないのは甚だ遺憾なわけだ▲特殊看護婦人會は旅順にも奉天にも安東、鐵嶺、長春にも設けられてあるのに肝腎な大連にないと云ふのは大袈裟に申せば大連市の不面目である▲大連には日華婦人會、大連婦人會、佛教婦人會、基督教婦人會その他種々の婦人會があるが餘り社會的に活動しない▲それは兎に角として最も意義ある特志看護婦人會が大連にないのは赤十字支部の怠慢のためか婦人連の無理解無自覺の致す所か但しはまた看護婦といふ名前を妙に誤解して居るためで有るか▲孰れか其の一に基因する事と思はれるが奥地に有つて大連に無いのは何にしても面白くない赤十字大連支部たるもの大いにベストを竭して其の設立を期す可しだ▲特志看護なるものは元來中流以上上流階級の婦人が人道のため博愛のため卒先進んで其衝に當るべきであるのに大連の婦人連にその奮發心が起らぬと云ふは甚だ以て遺憾千萬と謂はねばならぬ▲中流以下々流階級の婦人と違つて上流婦人は家庭上に相當の餘裕力を有つて居られる筈だ其の餘裕力を割いて廣く社會のため一般のために働らくのは皆さんの義務だ▲西洋かぶれをして妙な社交に憂身を窶したりお化粧と衣物のこと計り考えたり或はダンスなどして當世婦人を氣取つたりするのは感心しませんよ▲それ丈けの暇があるなら其の暇を以て社會公共のために婦人としての相應はしい働きをなし特志看護婦となつて病弱者に對し深厚濃密の愛を注ぐべしである▲それには特志看護婦人會を作り其の組織統制の下に一體となつて病苦に惱むものを或は病院に訪ひ或は家庭に尋ねて親切に世話をする事にせねばならぬ▲現代はプロレタリア、勞働者、無產者、下層者の自覺時代で彼等の自覺と共にブルジョア、資本家、有產者、上層者に對する彼等の反抗心が次第に高まりつゝある▲之れは皆さんも御承知だらう之を其の自然の成行きに任せば種々の爭鬪が激しくなり人間の心が殺伐になりそして此の社會を修羅の巷にして了ひます▲斯る時代には上流階級の人々が先づ時代の傾向に鑑みて其の思想と態度を改めることが第一で上流婦人もまた當に飜然として悟る所なくてはなりません▲皆さんが特志看護婦となつて博愛及び人道のために身を挺して勵めば病者を慰むると同時に一般の人々を感激せしめ下からの反抗を緩和し延いて之より生ずる忌はしい爭鬪を少くする事にもなる▲昔は光明皇后自ら癩病患者の看護を遊ばされ淳和帝の后宮正子内親王は多くの遺棄兒を保護遊ばされたが今日でも皇后陛下御自ら繃帶を作らせられて病者に賜はる▲之を思ふたら上流階級の貴婦人方は妙な社交やダンスに熱中するよりも特志看護婦となつて働く方が遙かに婦人としての本分に適ふことを悟り得るだらう▲特志看護婦となれば看護方法は勿論のこと繃帶の作り方から生理、病理、解剖等の學問も一通り覺えられるから自分の家庭に病人のあつた時にも大いに役に立つ▲病人の看護は婦人に限るので看護は何處でも婦人といふ事になつて居る此の普通看護婦の外に出來たのが卽ち特志看護婦であつて其の團體は赤十字社で作ることになつて居る夫れが今日の謂ゆる特志看護婦人會だ▲ざつと以上の如き次第であるから此際一日も早く大連に特志看護婦人會を組織すべしで夫れには赤十字支部も大いに腕に縒を掛けて活動せねばならぬ▲支部では產院を建てるさうだが產院もいゝとして肝腎な赤十字事業の眼目たる特志看護婦人會を何時までも放たらかして置くのは間違つた事である。



早熟のS青年

裾野山人

稲にワセとオクの二種類がある様に人にも早熟と晩成の二ッがある。大器は多く晩成である様だ。S青年は早熟の方で、頗るマセた所があり、才氣縱橫であると共に、性慾の發動も早い。何でも十六歳頃から春を解したと云ふ事だが、徵兵檢査前の二十歳前後に自分より二ッばかり上の女と戀に落ち、旅順で心中まで仕かけ、心機一轉、神戸に驅落と出掛けた。處が神戸で相手の女に逃げられ、失望落膽、こゝに再び心機一轉して大連に戻り、必ず悔ひ改めると云つて私の處に來た。心中だの驅落だの、と云ふローマンスを遣つたのは一昨年の二三月頃で、大連に戻り、私の家に入つたのは其の六月頃であつた。

私はS青年の早熟には早くから氣が附いて居つたので、彼が商品館に勤めながら小さな雜誌を發行して居たとき、それを扶けると共に、或日斯んな事を彼に話した。

『私は臺灣、朝鮮、滿洲と植民地廻りをした男だが、臺灣に往つたのは二十二歳頃で、女欲しさの最中であつたけれども、先輩の注意もあつたし、堅く決心して二年ばかり酒と女を斷ち、克己抑制を旨とし、總ゆる誘惑と闘つた、腹の底を締めて掛かると斯んな事も案外に安く出來るものだ』

それとなく諷刺的に話したのだ。これは自慢の意味で語つたのではなく、私のやうな者でも覺悟次第で此位な事は出來るのだから、君とても出來ない事はあるまい、と云ふ意味で話したのであつた。其の當時S青

年は此の話をいかにも感心した樣に聞いてゐたが、何ぞ圖らむ、此時彼には已に情婦が出來てゐたのである。そして其の情婦と旅順で心中を仕かけ次いで神戸に走つたのである。

S青年は私に能く懷いた、私も彼を愛した、子供のない私等夫婦は彼を家に入れると共に子供のやうに思つて及ばずながら彼を世話した。彼は幼少のとき父親を亡くしたとのことで、私の家に入る前から、彼は私を親と思ふて云つて非常に懷いた。隨つて私も彼を極度に愛した。それ丈け彼の情事についての私の驚きは並々でなかつた。そこで或時は彼に斯んな話をした事もある。

『若い時は誰しも戀に狂ふ、花に浮かれる胡蝶のやうになる、併し向上進歩を志す青年は一方に於てちつと心の手綱を引締めて修養に勵む、修業に心を傾むければ戀に狂ひ廻るやうな事はない、私のやうな平凡の男ですら、十臺から二十臺に亙つて學事に熱中し、そして自然に性慾を抑制した、下宿をしてゐた處の女から附ぶみされた事もあつたが、その附ぶみで涕をかんで了ひ、そして何處までも勉强した、今から思ふとチト薄情のやうに思はれるけれども、當時の私は全く戀など考へて居なかつたのだ』

これも惚氣の意味で語つたのではなく、既に戀に狂つた彼の事でもあるから、彼の省察を促すために話したのだ。私は非常にS青年を愛して居たので、彼が私の家に入つてからは、彼の向上進歩といふ事ばかりに心を碎いた。それで彼を勵ますべく斯樣な話までしたのである。

『君は女のために一度失敗したのだから、今後は私の處で勉强する覺悟で二三年辛抱したまへ、若い時に勉强して實力を附けないと、後になつて屹度悔ゆる事がある、君は早熟の方なので、隨つて或點の發達も早いやうだが、それ丈け注意しなくては可けない、何にしても辛抱が肝腎だ』

斯んな事を話したこともある。また或時は次のやうな話をした。

『妻帶は二十五歳以後と極めたまへ。君はまだ徴兵検査前の青年で、今が勉强盛りの時だから、戀のために心を亂さぬやうに注意し、今の內のウンと實力を養ひたまへ。餘り早く妻を持つと、生活問題のために次第に英氣が失せてダメになつて了う。私の友人にAといふ天才肌の非常に才はぢけた青年があつて、先輩からも、友人からも、前途有爲の好青年として大いに望みを囑されて居たが、或女と戀に落ち、修學最中の二十二歳にその女を妻にして一家を持つてから、間もなくダメになり、學問も中途で挫折し、其後は或る會社の事務員になつたが、生活問題に追はれて益々ダメになり、前途有爲の好青年と目された此の男は遂に全く社會の落伍者となつて了つた、三十歳時代にAは早くも凋落期に入つた。早熟のものは能く注意しないと往往斯うした結果になる。木戶松菊の詩に（才子恃才愚守愚、少年才子不如愚、請看他日學成後、才子不才愚不愚）といふのがあるが、實際その通りだ。君は滿足に學校の課程を踏んで來たのではなく、天性の才氣一方でやつて居るのだが、天禀を恃んで眞面目に勉强する氣が起らず、心を放縱にし、戀に狂つたり性慾の發作するがまゝに妄動したりすると、其の天性を荒蕪に歸せしめ、才智が悪い方面にのみ働き、良心が暗くなり、磨けば光るいゝ玉も結局見にくい石ころになつて了ふだらう。自由は抑制と相待つ、抑制のない自由は放縱となり我儘となる。放縱と我儘とは身を滅ぼす元である』

そして私はS青年に二十五歳までは必ず妻帶せぬと云ふ誓ひをさせた。怜悧な質だけに危なッかしい處もあつたので、斯く誓はせたのであるが、それは實に私が彼を深く愛しそして彼の向上進步を日夜神に祈つてゐたからである。私はS青年を磨けば光る玉と思つて居たのである。

然るに早熟の此のS青年は再び或女と戀に落ち、又もや花に浮かるゝ胡蝶となり、私が彼のために盡した總ての好意を蹂躪して竟に私の家を無斷で飛び出して了つた。彼は十六歳のとき鄕里の家を飛び出し、二十

歳のとき私と同じやうに彼に心から好意を寄せてゐたKなる者に背いて更らに其家を飛び出し、今度また私の家を飛び出したのだ。これで丁度三度目の飛出しである。母親に背き、好知己に背き、子供のやうに思つて可愛がつてゐた私にまで背いたS青年は、何といふ放縱であり我儘であらう。私が一時非常に激怒したのも當然だ。某著に勤める私の知人は此話を聞いて『お怒りなさるのは尤である』と言つて呉れた。ウンと懲らして遣らうかとも思つた。殊に公けにすべからざる事を公けにして私の面子を汚損しやうと企んだり、無實の事を虚構したり、いろ〳〵と才智を惡い方面に應用して、私が激怒の餘り彼に對して取つた措置に反抗を試みやうとした時、私は『何といふ不德義な青年だらう、斯んな青年とは思つて居なかつた、私は彼を見損なつたのだ、私は不明な男であつた、ヨシ然らば當方にも取るべき手段がある』と、既にその用意までしたが、餘り大人氣ないと思つて罷めた。此際私の彼に對する考は全く一變した。

S青年が私に背いて私の家を無斷に飛び出したのは今年の一月末であつたが、當時彼は大阪に往くと言つたので、私は惡感情を抱きながらも彼に相當の旅費と手當とを與ゐた。彼は之れに對して感謝の意を表すると共に、特に一札詫狀を入れた。それで私は幾らか感情を和らげた。元々深く愛してゐた青年だから心から憎まうと云ふ考ゐは持つてゐない。唯殘念に思つたのみである。

處が大阪に往つたS青年は其後間もなく又大連に戻つて來た。大連に戻つて來たのは、二度目の情婦が大連に殘つてゐるので、その愛に牽かされた爲だらうと思ふが、或者の語によると、彼は大連で徵兵檢査を受ける事に手續きがしてあつたので、その爲め鳥渡歸つて來たのであると云ふことであつた。私の處には頓と顏出しをしなかつた。來る氣がなかつたのか、來られなかつたのか、どつちだか分らないが、兎に角私の處には何の挨拶にも來なかつた。私も强いて彼に遇はうとは思はなかつた。

此時である、彼が或者の秘事を素破拔くといつて其者から少からぬ金を取つたといふ新聞記事が出たのは此時である。私は此の新聞記事を見て更に大いに驚いた。私のさせた仕事には曲事をなす少しの間隙もなかつたのだから、此の新聞記事は私の迷惑にはならないが、彼が小雜誌を發行してゐた時から關係して居つた或新聞を利用して斯る行爲を敢てし、その惡德なる行爲がまだ私の處にゐた時に行はれた事を思つて、私は少からず胸を惡くした。彼が私に對して窮鼠猫を噬むやうな事を敢行しやうとした事と、それから斯樣な羽織ゴロ然たる曲事を敢てした事を思ひ合せて、私は彼に不良性がありはせぬかと疑つた、才智を惡い方面に使ふなとも思つた、放縱と我儘とで彼れ自らその天才を濫用するなとも考ゐた。

それのみではない、其後私は私の懇意にするT醫院長のT氏からも次のやうな事を聞いたので、いよ〳〵私の不明を恥づると共に、私はS靑年のために之を悲しんだ。

『S生は予の處の看護婦にも軟文學的の甘たるい附文をした、予はそれを見た、S靑年は此の看護婦のことを新聞に褒めて書いて出し、そして(別にお禮をして貰ふとは考ゐないが、僕の好意を思ふならば、僕と肉體的交際をして下さい)といふやうな文句を書いて誘惑しかけたのである、此の看護婦は幸ひにしつかりして居たので、大事には至らなかつたが、何にしても油斷のならぬ靑年だ』

これはT氏の直話で、T氏が私に噓を語る筈はないから、之れも事實に違ひない。或る女中にもレツターの中に五圓紙幣を入れて迫つたといふ話も耳にした。私は是等の話を聞いて大きな溜息を吐かずには居られなかつた。放縱と我儘とで天才を惡い方面に向けるS靑年を寧ろ憐まずには居られなくなつた。一たび朱に染つた布は白くなれない。S靑年が斯うして益々惡化すれば、彼の前途に光明はない、彼は自分で自分の影を暗くし、自分で自分の墓穴を起る事になるだらう。早熟の彼はその早熟に禍ひされて其の凋落期を早める

事になるだらう。彼を愛して居た丈けそれ丈け私は彼のために之を悲しむ。

S青年は其後郷里に引揚げた。大阪は思ひ切つたものと見ゑる。いかに怜悧でも悪い方面に段々足を踏入れては前途知るべしだ。此上益々悪化すれば愈々邪道に踏み込んで窘迫するばかりだ。二十五歳までは妻帯せぬといふ私への誓ひは反古にするらしい。困つたものだ。何うしても悔ひ改めて心から生まれ更ることが出來なければ、馬の耳に念佛で、いくら言つて聽かせても役に立つまい。怜悧でも經驗と體得に乏しいから本當に先輩の言を嚙み分ける力もあるまい。ワセは竟にワセだ。稻のワセが早く伸びて途中で發達が止まつて了うやうに早熟のS青年の前途も甚だ心許ないわけだ。

露天市場を覗く

新旅順　TW生

或日のこと私は小崗子警務署の前で電車を捨てゝ支那人の遊樂境一名露天市場に行つて見た。流石は盛場だけに好くも這麽に人出があるものと唯々驚くばかり。埃まみれの案の上に型の如く筮竹や易書が置かれてそこに斑白の占卦的が迷ひ來る亡者共を相手に、諄々乎として卦面に現はれた易について說き聞かして居る何しろ支那人は迷信が深いから何を措いても先づ卦を立てゝ吉凶を判じ禍福を斷じて貰ふ。お蔭で卦舘は何處でも大繁昌だ。好い加減の嘘八百も時に取つての守り神、溺るゝものは藁さへ掴むの譬ゑ、この占卦も支那人の社會生活上には無くてはならぬ要素の一ツである。

粗鬆な表土が歩くたびに埃になつて濛々と舞ひ上がる。道傍に荷を卸した果物賣は傷ついたろうす物を安

く買込んで一個一個字兒なんて大聲で叫んで居る。總じて支那人は未來よりも現在を樂む風があるから、果物の如きも十分熟れて少々腐りかけた位のものを喜ぶのである。花は盛りを見るものかはなどいふ風流心は一寸支那人に望まれない。從つて理想よりも現實を尚び、その結果、享樂主義となつて、その日〳〵を樂しく暮して行くといふ段取になるのだ。入口の所で凧を賣つて居るものがある。買手は子供よりも大人が多く好い年をした者が順風に凧を飛ばして居る。頗る暢氣なもので、全く脫俗的である。之をまた阿呆面して眺めて居る手合が尠くない。私は支那人の斯うした國民性の閃めを悅ぶ。

市場の建物は寔に貧弱だ。相手が支那の貧乏商人だからと云へば夫迄だが、併しもう少し色と香を持たせ多少彼等の嗜好をも尊重して建てゝ遣つたらと思つた。それかあらぬか小口の方には空房が馬小屋のやうに立列んで居た。軒頭高く床屋の象徵たる例の『朝陽取耳、淸水洗頭』の白旗が露路を廻る朝風にひら〳〵躍つて居る。薄暗い部屋の中では前淸時代の客が辮髮を編ませてゐたが、極めて氣樂さうに長煙管ですぱ〳〵やり乍ら、床屋相手に愚にも附かぬ世間咄に花を咲かせて居た。丁度その昔日本で髮床を閒人の溜所とした風習に髣髴たるものがある。それから几帳面な日本衙門の設計とあつて市場内の二三箇所に便所の設備がある。偶々その附近でも通り合せた時は無論便所内で用を足しもするが、元來が文化的試練に乏しい支那人は便所内で用便することを爾く重要視し居ない、行當りばつたり黃金の山を築き綠の川を漲らすので、市場外廓の煉瓦塀の根元などはどんな晴天でもじは〳〵して居る。君子自重の禁札もこゝでは全く用を成さないと見ゆる。寒い時だから好いやうなものゝ、之が夏分などであつて鼻や眼を刺すやうな蒜入りの臭氣に當てられては堪つたものでない。恐らく辟易せぬものはあるまい。けれども傳統的痳痺性に罹つて居る支那人に取つて斯様なことは全く河童の屁程にも感じないのである。

何々茶園と銘打つた緞帳芝居、安値寄席が五六箇所あつて、例の甲高い聲が屋外に洩れて來る。金の無い連中が大木に蝉といふ格恰で一所懸命隙見をして居る。しつとり重い簾子を掲げて園内を一わたり眺めると時刻がまだ早い爲か、看客は寥々たるものだ。十三四の娘子が胡弓や竹板に合せて唱ふ哀切な音律、何處か斯う亡國の調を含んで居るやうに聞ゐる。それでも粗末な板櫈子に腰打ち掛けて瓜子兒を嚙りながら異性の肉聲に感嘆の聲を惜まぬ底の者がある。此方の空地には大蛇の見世物があつて、好奇心を唆るやうな畫看板と相俟つて、客呼ぶ伱呀の聲が喧しい。何だかこう一世紀も前に遡つて宛然田舍の御祭でも觀て居るやうな氣分を起させた。低級と言へば言へ、日本も曾ては這んな時代もあつたではないか。大聲俚耳に入らず、低級な人間はやはり低級な趣味しか無いから、それに相應した娛樂機關を作つて遣つて、知らず〳〵の中に慰安の道を與へ善導の法を講ずるより外仕方がないと思ふ。など一ぱし社會敎育家めいた氣持になつて、尚ほ奥深く進んで行くと、狹い露路を差挾んで飮食店が軒を列べて居る。じい〳〵音を立てゝ燒付く包子の匂が堪らなく嗅覺を唆り立てる。支那の李兵衛や田吾作連、自分の女房の手料理とは違ふので、例の八仙桌子に寄薙つて、さも旨さうにパク付いて居る他愛なさ。それを見た私も胃の腑の催促に誘はれて但ある飯舘子に入つて、ケチな樣だが大滷麵一碗を注文した。市内で二十錢する位の大きな碗で而も唯の十錢、旅大の物價そのものを高くするのは要するに支那人に非ずして日本人ではあるまいか。隣席に居つた百姓が腹一杯詰め込んでいざ勘定といふところを瞥と見たが、驚く勿れ僅に銀の十二錢。

去つて前方の廣場に行けば此處にも前世紀の遺物なる掛大畫兒（覗きからくり）があつて、一回が銅貨一枚といふ滅法界な觀覽料、順々に見廻つたが、何れを見ても大同小異で、取立てゝ云ふ程の事も無い。併し支那國民性の反面が遺憾なく此の小天地に浮動して居て捨て難い趣があつた。南北戰爭の畫面で、說明者が中

國打中國怪不怪(支那が支那と戰爭してゐるから妙だ)などと一寸非愛國式なところを發揮する。次に上海遊廊の畫面では、十七八の綺麗どころが粉黛臙脂、眼も絢なる粧ひを凝して、お雛樣のやうに濟まし返つて居る。歐洲戰爭の場面に象や獅子が火焔を吐いて、飛行器を燒落したり雜兵相手に立廻りなどする想像畫がある。この覗きからくりの眞髓とも言ふべきは例の罪人處刑の光景である。姦婦姦夫を衆人環視の中で處刑せんとする畫面が現れると、次の瞬間それが銃殺され斬首されて、鮮血淋漓たる修羅場が顯れるなどは考へたものだ。斯うして彼等は知らず〳〵の間に慘虐性を培はれて行くのである。奥地に行くと、街上で豚や鷄を屠つて居るのを能く見受けるし、又馬賊などを銃殺(民國以前は斬殺)する場合は勸善懲惡の爲と言つて衆人に見物させるが、併し是も聊か考ゑ物と思ふ。何となれば、一方勸善懲惡の目的を達すると同時に一方慘忍なる性情を植ゑ付け、結局プラス、マイナス零となるからである。それから支那の覗きからくりの特徴たる淫畫は流石に御膝下だけに全部除いてあつた。否、私が其筋の日本人らしいと睨んで特に此時だけ取除いたのかも知れない。哈爾賓傳家甸では白晝公然と廣場の眞中で千態萬樣の合戰(但し西洋物)を十枚一錢の割で見せて居たことがあつた。次に日本で云へば居合拔きといつたやうな具合で槍や刀を自由自在に打揮つて見物人をはら〳〵させる大道藝人が居た。是も近頃流行の文化施設とやらから見れば、正に逆轉といはうか、時代錯誤と言はうか、評言に苦む次第だが、中には鷄卵ぐらゐの鐵玉を呑んだと見せて、さも苦しさうに目を白黒させ涙を溢しながら哀を訴へると、半圓を描いて立見をして居る連中が盛んに一個銅子兒を投げて遣る。支那の民衆の遲れて居ることは此の一事でもハッキリと分る。

尙ほ奥に進んで行くと地區が一段高くなつて、是からが謂ゆる泥棒市場である。玄關先で失敬された靴が翌朝此處の市場で發見されるといふ一件で、全く天勝そつち除けの場所なさうな。併し是には大分お負けが

あつて、實際は夫程のことも無く、大部分はやはり屑屋の手から買はれて來たものを陳列して居るので、時時掘出物があると云ふ。噂に釣られて相當身分のある日本人もお忍びで遣つて來るらしい。私が探檢した日にも何十人かの邦人に出合つた。お互にきまり惡さうな格恰をして居るが、何も耻かしがる事はない、是も或る意味に於ける日支共存共榮の實行手段かも知れぬ。と云つた處で、態々財布の口を開けて買ひたいと思ふやうな代物は不幸にして鳥渡見當らなかつた。口の缺げた瓶やお尻の拔けた洋服ではてんでお咄にならぬけれど古物承知で買ふ氣なら寔に便利なもので、値段も相當安いから、プロレタリアたるものは大いに利用して可なりと思ふ。併し看外國人多要錢(外國人と見たら高値を吹掛ける)だから、實際買ひたい品物だつたら半分位に値切り、成るべく買はないやうな氣ぶりを見せ、買つても買はなくともと云ふ品物だつたら五分の一位に値切るべしだ。尤も此の値切るといふことも日本人が支那人に傳授した虎の卷で、今では病殆んど膏肓に入り、牢乎として拔くことが出來ないやうになつてしまつた。

それから此の一劃は流石に治外法權(?)とでも言はうか天下晴れての御法度が公々然と而も白晝行はれて居るから凄じい。方法は色々あつて近頃はトランプ三枚で遣る簡便法さへ出來て居る。就中日本のチヨボ一式に茶碗と賽ころでやる方法が一番流行して居る。何しろ支那人は賭事が好きで、お菓子一つ買ふにも例の抽籤子で運試しをやる位だから、商人は博奕道具持參で物賣せねばならぬといふ仕儀である。一か八か、旅大回收問題の如きも全く此式で遣るのだから堪らない。兎も角も支那人は小孩から老人に至るまで賭事が好きで、彼方の崖下で大人數名が車座になつて勝敗を競つて居るかと思ふと、此方の道端では子供連が澤山集つて一錢銅貨を投付けては輸贏を爭つて居る、といふ有樣。之れを日本の法律で一々取締つたら際限がないので、一は民族性尊重の一端として、不即不離の間に放任し置くのだらう。

次に市場の大部分を占めて居るものは估衣舖（古着屋）で、中には可なりの代物もあるが、大部分は流質品であつて、觸るれば虱が喰ひ付きさうなものが多い。此の古着屋もお多分に洩れず例の博奕と大關係があると言ふのは、元來支那の質屋は日本と同じやうに貧民の金融機關だが、入質者の大部分は主として博奕に負けたもので、彼等が博奕の資金を得べくその品物を曲げるからである。支那の質屋は謂はゞ博奕の爲めに儲けて居るやうなものである。此の古着屋に次いで多いのは古鐵屋だ。眞赤に錆びた圓匙や鍬がさも恨めしさうにごろ／＼して居る。こうした店舖の居間が又極めて狹苦しいので、纔に横になれるだけの炕が仕切られてあるばかり、甚しいのになると、屋根裏に巢を食つて梯子で昇り降りして居るのもある。大抵は山東からの渡り者であつて、中にはまた女房と子供を伴れて來て居るのもある。

シンプルライフも理屈ばかりでは埒開かぬ。社會改良を云々する者は是非此邊の情況を視察して置く必要があると思ふ。かゝる賤が伏屋の軒下にも暖い春の日が翳し掛つて白翎子の囀づる聲がいかにも長閑であるかくて一時間許り逍遥いた後、再電車の客となつて大連に向つた。一日の勞働を終へた苦力たちが其の住ひを指して如何にも疲れたといふ容子をして歸つて行く哀れな姿が窓外に映つて行く。けれどやがては暗に咲く花が匂ひ溢れて疲れ切つた彼等の身心を慰めることであらう。



研究會の旨趣目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて賛助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名並に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は賛助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に五回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以て之れに充て會費は賛助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

毎月一回發行

定價表

本號は壹部金七拾錢

冊數	定價	郵税
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵税共
一箇年分	七圓五拾錢	郵税共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割增

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

●三回以上は割引可仕候●年極めは特別に御相談可致候

●〆切りは前月二十日限り

大正十二年六月一日發行

發行人　山田武吉

編輯人　大内四郎

印刷人　太田信三

印刷所　小林又七支店　大連市大山通七十四號地

發行所（電話五四二六番）　滿洲社會事業研究會　大連市霧島町ヌ區十六號地　振替口座大連一二三九番

祝壹週年紀念號

大連市軍用地二區二號

大連取引所信託株式會社

電話 七一二一番
五七五八番

營業目的
一、大連重要物産取引所に於て成立したる賣買取引の擔保及び精算業務
二、重要物産取引者に對する資金融通業務

大連市吉野町二丁目

大連株式信託株式會社

電話 八〇八五番
八〇八六番

本店大連市信濃町

滿洲水産株式會社

電話 四五三三番

支店 旅順朝日町 電話 六五番

出張所 柳樹屯 電話 一二番

祝壹週年紀念號

大正十一年八月十五日(第三種郵便物認可)
大正十二年六月一日發行(每月一回一日發行)